



令和2年度・3年度共同募金助成事業

富山県聴覚障害者生活実態調査 報告書

社会福祉法人富山県聴覚障害者協会

あいさつ

社会福祉法人富山県聴覚障害者協会

理事長 石 倉 義 則

共同募金の助成を受けて、富山県における「聴覚障害者生活実態調査」を二年にわたって実施致しました。ようやく「報告書」をお届けすることができました。

実態調査のたぐいは、本来なら「対面実施」が望ましいあり方なのですが、ご承知のようにこのコロナ感染症の拡大下では、それも思うに任せません。郵送及びインターネットによるアンケートを中心に実施せざるを得ないところに、本調査事業の難しさがありました。制約はありましたが、アンケートにご協力いただいた皆様の回答は貴重なものです。数回にわたる「調査委員会」において内容を吟味討論し、このように「報告書」としてまとめることができました。本調査に携わった関係者の皆様に、御礼申し上げます。

目 次

●あいさつ	1
●事業目的と方法	2
●調査結果	4
●総 論	31
●提 言	35
●委員からのコメント	38
●アンケート用紙	41

事業目的と方法

目的

富山県内に居住する聴覚障害者の生活、就労、コミュニケーション、情報アクセス、文化享受等についてアンケート調査及びヒヤリング調査を行い、高齢者のための社会資源、就労の環境、手話言語が使える環境、情報アクセス等について提言を行うことを目的とする。

近年、国連・障害者権利条約の批准を中心に、障害者基本法、障害者総合支援法、障害者差別解消法が整備され、県内においても平成26年12月に「障害のある人の人権を尊重し県民皆が共にいきいきと輝く富山県づくり条例」が、平成30年3月に「富山県手話言語条例」が制定された。障害者を取り巻く環境は大きく変わってきているが、一人ひとりの聴覚障害者の生活の様子についての基礎的なデータがないことから、生活をどのように過ごしているか、コミュニケーションの実態と課題、就労と健康に関する実態と課題、情報にアクセスする方法や課題を明らかにすることが今回の調査の目的である。その結果を踏まえて、聴覚障害者に対する理解と配慮、どのような支援が必要か、そして、就労の場面における合理的配慮の提供や環境改善、手話言語が使える環境改善、情報アクセシビリティの推進、聴覚障害者が安心して利用でき施設等の社会資源の改善等の提言をまとめることが第二の目的である。啓発資料として発刊し、行政や企業、関係機関・団体等に配付するとともに、講座・学習会開催の資料として活用していく。

事業概要・方法

2021年9月22日付け文書にて富山県聴覚障害者協会の会員及び元会員260人に調査用紙発送。富山県聴覚障害者協会ホームページにて調査のお知らせ、協力依頼、アンケートを公開。またGoogleアンケートによっても回答できるようにした。特定非営利活動法人富山中途失聴者難聴者友の会、人工内耳友の会富山支部にメールにて協力依頼を行った。10月25日締め切りとしていたが、回収状況をみて締め切りを11月25日に延長した。

個別ヒヤリングとして、富山県聴覚障害者協会の会員から30代男性、40代女性、60代女性 の三人から近所との付き合い、職場での様子、今後希望することを中心に聞いた。

結果として、回答数は、郵送104件、Googleアンケート33件、合計137件となった。

調査委員会の構成 聴覚障害者の生活実態調査真事業委員会

社会福祉法人富山県聴覚障害者協会

石倉義則理事長、小中栄一副理事長、中橋道紀事務局長・施設長、

蛭川一美福祉対策部長、河内正治手話対策部長、大楠航一郎文化部長

富山県手話通訳問題研究会運営委員

草野佳奈、坂本孝子、塩見七恵、清水歩、津幡操、堀江康子、水木宏一

富山県手話通訳士会

中橋露子会長

特定非営利活動法人大きな手小さな手

金川宏美理事長、山崎清之理事

富山県手話サークル連絡協議会

山崎直美会長

聴覚障害者の医療を考える会

堀江康子

学識者 富山福祉短期大学国際観光学科教授 鷹西 恒

調査委員会

- ① 2020年12月22日(火) 午後7時～9時
- ② 2021年2月5日(金) 午後7時～9時
- ③ 2021年9月5日(日) 午前10時～12時
- ④ 2022年1月28日(金) 午後7時～9時
- ⑤ 2022年2月6日(日) 午前10時～12時 一部オンライン
- ⑥ 2022年3月4日(金) 午後7時～9時 一部オンライン
- ⑦ 2022年3月15日(火) 午後7時～9時 一部オンライン

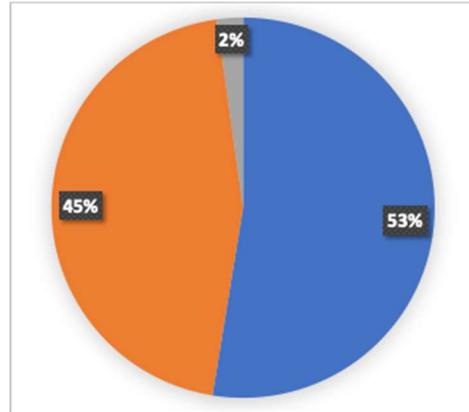
学習会

2022年3月6日(日)耳の日福祉集会にて中間まとめを報告、意見を聞く。

調査結果

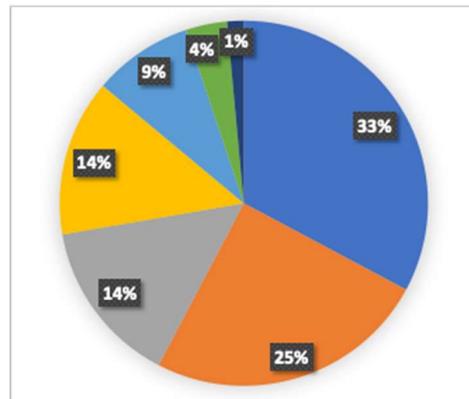
1. 性別

1. 性別		
男	72	53%
女	62	45%
無回答	3	2%
計	137	



2. 年齢

2. 年齢		
70歳～	45	33%
60～69歳	34	25%
40～49歳	20	15%
50～59歳	19	14%
30～39歳	12	9%
20～29歳	5	4%
無回答	2	1%
計	137	

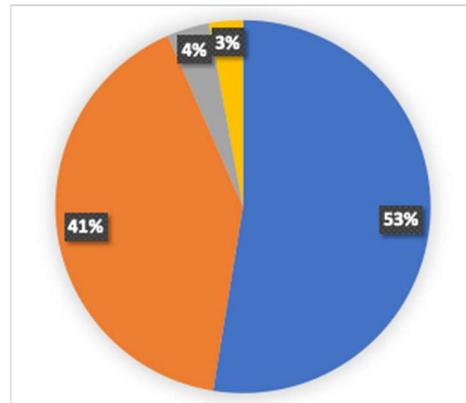


最も多いのが70歳以上である。60歳以上の合計では79人であり、全体の58%を占める。次に多いのが40歳代で15%。20歳代は4%だけだった。20歳～39歳では17人となり、若い人の回答が少なかった。

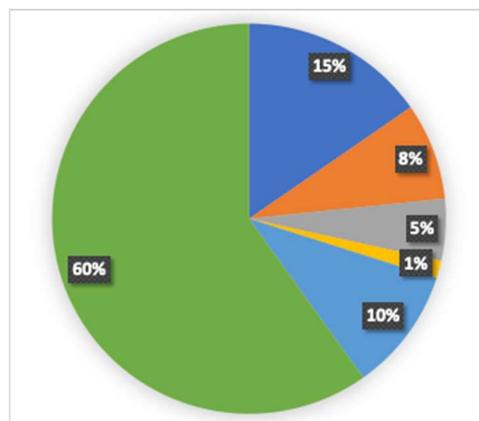
ただ、富山県聴覚障害者協会の会員の年齢層も同じ状況にあり、超少子高齢化の課題に直面しているといえる。協会の会員になっていない若年層の聴覚障害者との関わりをどう作るかが問われている。

3. 聞こえない、聞こえにくくなった年齢

3. 聞こえない、聞こえにくくなった年齢		
生まれつき	72	53%
生まれてから〇〇歳頃	56	41%
分からない	5	4%
無回答	4	3%
計	137	



3-1. 何歳から聞こえない、聞こえにくくなったか		
3歳	21	15%
1歳	11	8%
2歳	7	5%
12歳	2	1%
その他	14	10%
無回答	82	60%
計	137	

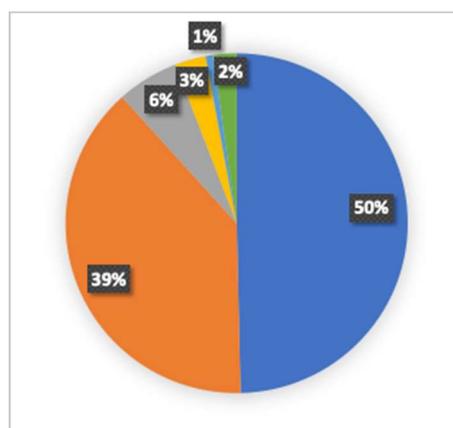


※その他回答：0歳、4歳、5歳、6歳、7歳、10歳、47歳、53歳、55歳、など

「生まれつき」と回答した人が53%と最も多い。これは身体障害者手帳に「先天性」と記載されているから「生まれつき」と回答した人が多いと思われる。実際には生まれてからの病気等により聴覚障害となる例が多い。昭和の中頃までは、聴覚障害があることがすぐに分からず、成長していく中で聞こえていないらしいと分かることが多かった。そのため原因も失聴年齢も不明であることが多い。それが「先天性」という記載になっていると考えられる。よって聴覚障害を持って生まれたという例は少ないと思われる。聞こえにくくなった年齢の回答では、3歳頃までにわかったとする回答が一番多い。

4. 身体障害者手帳を持っていますか

4. 身体障害者手帳の等級		
2級	68	50%
1級	53	39%
3級	8	6%
6級	4	3%
手帳を持っていない	1	1%
無回答	3	2%
計	137	



3級以下の難聴者の回答が少なかった。難聴友の会、人工内耳友の会の会員に協力を依頼したが、もともと会員が少ない。本会のホームページにも掲載し回答を呼びかけたが、組織に入っていない人への案内方法が無い状態。

1級は言語障害との合算によるものなので聴覚障害としては2級。このため2級と1級を合計すると89%となり、ほとんどが重度である。

ちなみに富山県における身体障害者手帳の所持データをみると、1・2級の重度が約25.5%であり、中軽度の人が大半を占める。

【参考】富山県内の「聴覚・平衡・言語機能障害」による身体障害者手帳交付者は4,950名（令和2年3月末現在）

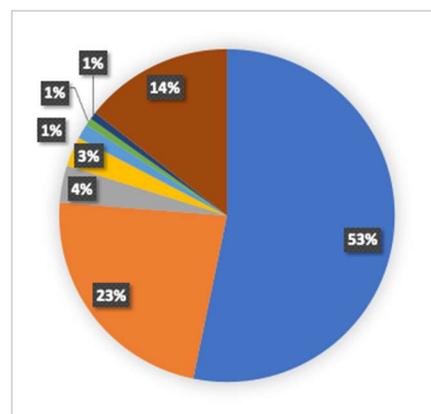
聴覚（4,423名）・平衡（60名）・音声言語・そしゃく機能（467名）

聴覚障害4,423名の内訳

- 1・2級 1,130名（約25.5%）
- 3・4級 1,426名（約32.2%）
- （5）・6級 1,867名（約42.2%）

聴覚障害以外の障害がありますか

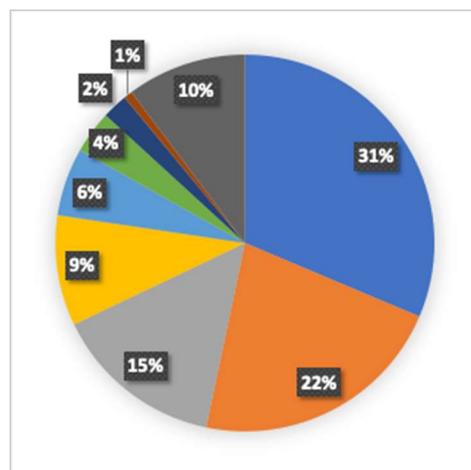
4-1. 聴覚障害以外の障害がありますか（複数回答）		
ない	74	53%
身体障害者手帳/言語障害	32	23%
身体障害者手帳/難病	5	4%
身体障害者手帳/視覚障害	4	3%
身体障害者手帳/肢体不自由	2	1%
精神障害者保健福祉手帳/精神障害	1	1%
療育手帳/知的障害	1	1%
無回答	20	14%
計	139	



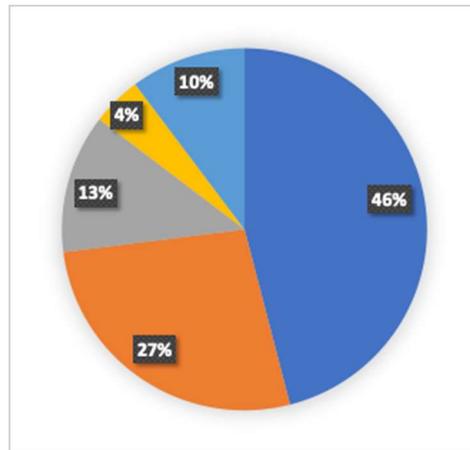
言語障害以外の障害のある人が少数存在している。

5. 今一緒に暮らしている家族の人数は何人ですか。

5. 今、一緒に暮らしている家族の人数		
3人	43	31%
2人	30	22%
1人	20	15%
4人	13	9%
6人	8	6%
5人	5	4%
8人	3	2%
7人	1	1%
無回答	14	10%
計	137	



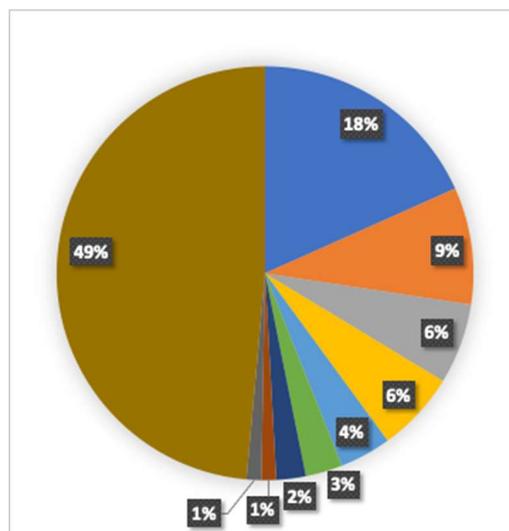
5-1. 家族の中で、あなたを入れて聞こえない人は何人ですか		
1人	63	46%
2人	37	27%
0人	17	12%
3人	6	4%
無回答	14	10%
計	137	



聞こえない人が2人というのは、聴覚障害の夫婦であることがほとんどと思われる。聞こえる家族の中に聴覚障害のある家族が0という回答は、自分を入れないで答えた数と思われるので、この回答17人と1人という回答63人を合計すると80人となり、全体の58%で、最も多い。

一人暮らしの場合、何かあったときに連絡できる人がいますか。

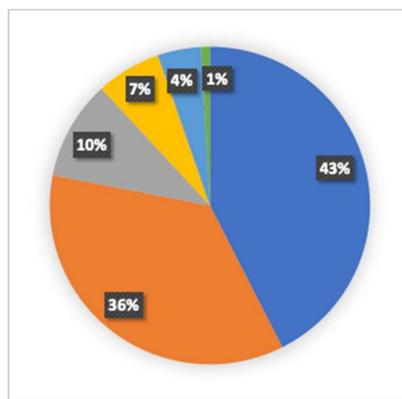
5-2. 一人暮らしの場合、何かあったときに連絡できる人がいますか（複数回答）		
家族	32	18%
手話通訳者	16	9%
親戚	11	6%
手話サークル会員	11	6%
いない	7	4%
隣に住んでいる人	5	3%
町内会の人	4	2%
近所の人	2	1%
友人	2	1%
無回答	85	49%
計	175	



何かあったときの連絡としては、家族、親戚が24%と最も多い。次が手話サークル会員、手話通訳者で15%。隣に住んでいる人、町内会、近所の人を合計すると6%。友人も少数いる。連絡できる人がいないという回答が4%（7人）いる。無回答の人が49%（85人）となった。これは、連絡できる人が誰かをすぐに回答できないという人が多いということではないかと思われる。

6. 近所との付き合いはありますか。

あいさつ程度	97	43%
回覧板の受け渡し程度	81	36%
行事に参加	23	10%
会合に参加	15	7%
ほとんどない	10	4%
無回答	2	1%
計	228	

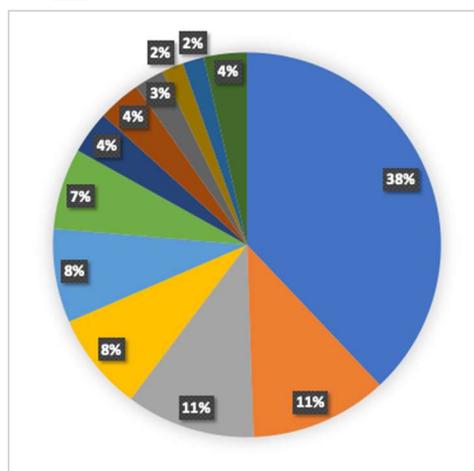


あいさつ程度が43%、回覧板の受け渡し程度が36%と、近所づきあいがあまり無い状態であることが分かる。

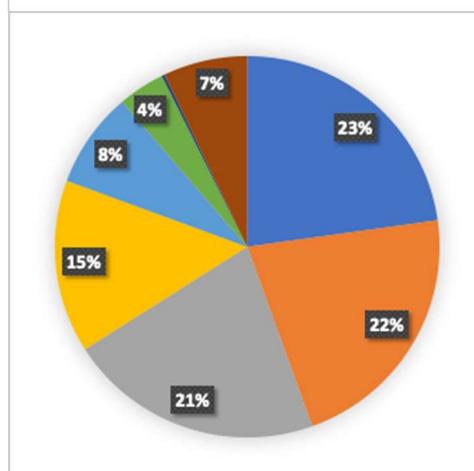
行事に参加する人が10%、会合に参加する人は7%に留まっているが、今後、どのように増やしていけるかが課題である。

7. あなたが受けた教育について そのすべてにをつけてください。

ろう学校 (聴覚総合支援校)	106	38%
小学校	32	11%
中学校	30	11%
高等学校 (高校)	23	8%
保育所	22	8%
幼稚園	19	7%
大学	10	4%
小学校通級指導教室 (特別支援学級)	10	4%
短期大学	7	3%
専門学校	5	2%
中学校通級指導教室 (特別支援学級)	5	2%
無回答	10	4%
計	279	



高等部	87	23%
小学部	83	22%
中学部	82	21%
幼稚部	56	15%
高等部専攻科	31	8%
教育相談	15	4%
筑波技術大学	1	0%
無回答	27	7%
計	382	



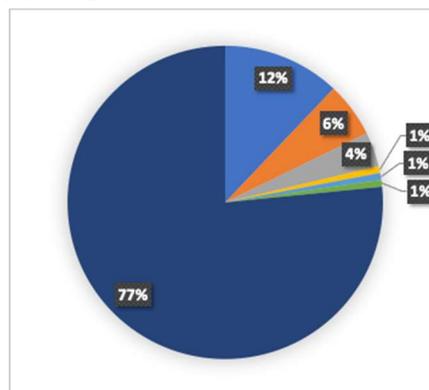
ろう学校 (聴覚特別支援学校) が38%と一番多い。

ろう学校からインテグレーションして地域の小学校、中学校で学んだ人、中にはろう学校を経験せず、地域の学校だけのケースなどいろいろな例があると思われる。

小学校、中学校と回答した人が30人程おり、通級教室と答えた人をあわせると15%程度の人が地域の小学校、中学校で学んだ割合といえるのではないかと思われる。専門学校、短期大学、大学経験者は合計して9%となった。

8. ろう学校から地域の小学校・中学校に進学・転校(インテグレーション)を経験した人への質問です。インテグレーションを決めた理由は何ですか

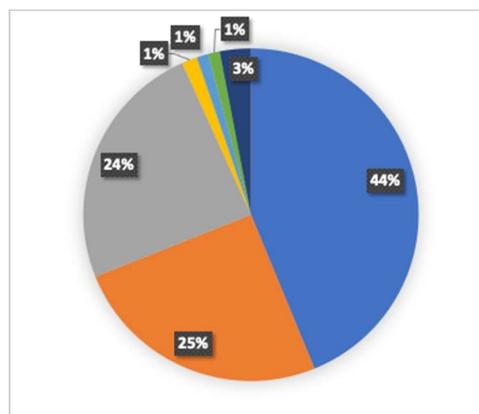
理由	人数	割合
親が決めたから	17	12%
先生からの勧めがあったから	8	6%
聞こえる人と勉強したかったから	5	4%
近所に友達が欲しかった	1	1%
学校に近いから	1	1%
資格をとれるのがそこしかなかったから	1	1%
無回答	108	77%
計	141	



先生の勧め、親の考えで決まった人が18%と多い。聞こえる人と一緒に勉強したかった、近所に友達が欲しかったという人も6人いた。

9. 協会などの会員になっていますか。いくつでも○をつけてください。

協会名	人数	割合
富山県聴覚障害者協会	117	44%
各市・地域のろうあ協会	67	25%
手話サークル	65	24%
富山中途失聴者・難聴者友の会	4	1%
人工内耳友の会	3	1%
その他	3	1%
無回答	8	3%
計	267	

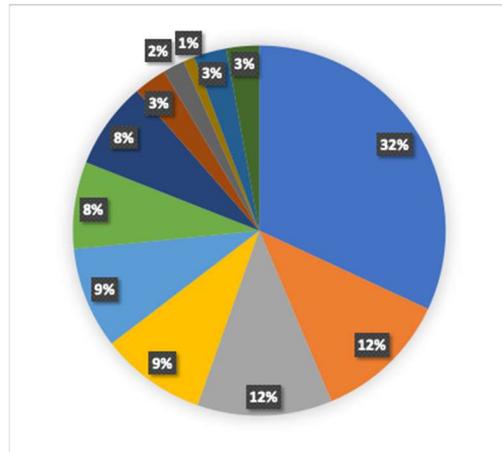


※その他回答：青年部、県外の同窓会会員、盲ろう者友の会スタッフ

聴覚障害者協会、各市や地域のろうあ協会に入っている人が69%と多くなったが、難聴・中途失聴者協会から4人、人工内耳友の会から3人の回答があった。手話サークルに通っていると回答のあった人は24%だった。

10. 手話を覚えた方法について、いくつかでも○をつけてください

10. 手話を覚えた方法 (複数回答)		
ろう学校で先輩や友達とおしゃべりで自然に覚えた	101	32%
社会人になって手話サークルに入会して覚えた	37	12%
ろうあ協会の行事に参加、青年部の活動などを体験して覚えた	37	12%
ろう学校の寄宿舎での生活の中で覚えた	29	9%
手話の本を買って、それを見て覚えた	28	9%
ろう学校の授業に手話を学習する時間があった	24	8%
テレビの手話学習番組を見て覚えた	24	8%
地域の手話奉仕員養成講習会などを受講した	9	3%
インターネットにある手話のYouTube等の動画を見て覚えた	6	2%
大学等に進学したとき手話サークルがあったので、入会して覚えた	3	1%
その他	9	3%
無回答	9	3%
計	316	



※その他回答 (一部抜粋)

- ・両親との会話見て覚えた
- ・スポーツによる仲間の会話
- ・嫁に行った時から入会して覚えた
- ・お母さんが手話教室に連れて行ってくれた
- ・ろう者から誘われて自然に覚えた

ろう学校で先輩や友達との会話の中で身につけた人が寄宿舎での生活で覚えた人と合計して41%いる。現在、寄宿舎はない。近年は、ろう学校で手話学習の授業も行われるようになった。

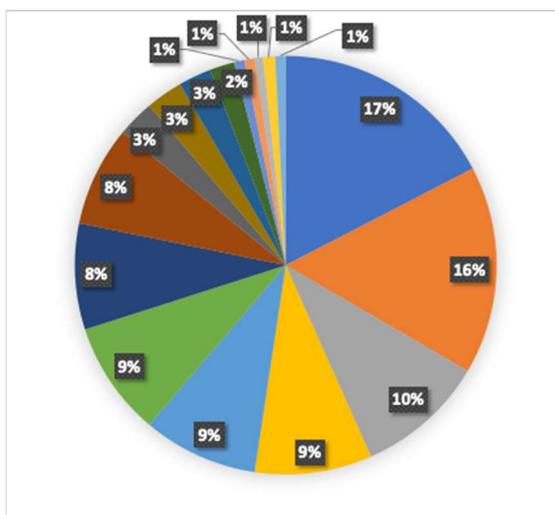
社会人になってから手話サークルに通って覚えたり、ろうあ協会の行事に参加したりすることで身につけたりした人が24%いる。

これは、一つはろう学校の中だけで通じる手話を使っていたので、社会人になると、使う言葉も増え、交流も広がるので、標準的手話や新しい手話を覚える必要があったこと、もう一つは、ろう学校在籍期間が短いか、ろう学校の在籍児童生徒数が減少していったため集団活動が小さくなり、手話を身につけるには不十分なまま卒業する例が増えていったことも影響していると思われる。

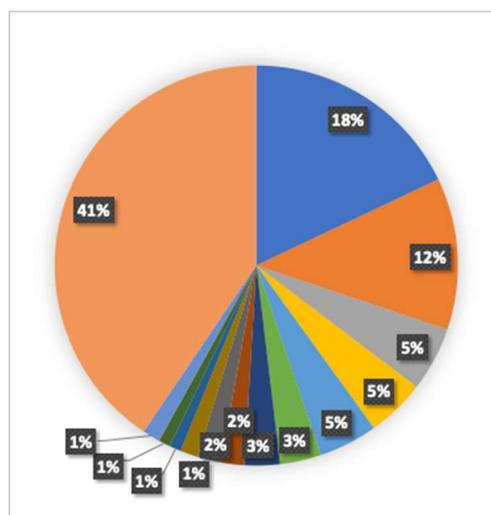
近年は、様々な手話学習の方法がみられている。

11. 会話のときに使っているコミュニケーション方法のすべてに☑をつけて下さい。

コミュニケーション方法	人数	割合
筆談	110	17%
手話	102	16%
身振り	63	10%
手話通訳	57	9%
補聴器	56	9%
声を出す	56	9%
読話	52	8%
指文字	49	8%
要約筆記	18	3%
コミュニケーションボード	18	3%
家族や介助者の支援を受ける	16	3%
音声認識アプリ	12	2%
キュードスピーチ	5	1%
絵やカード	5	1%
人工内耳	4	1%
その他	6	1%
無回答	5	1%
計	634	



コミュニケーション方法	人数	割合
手話	38	18%
筆談	26	12%
読話	11	5%
補聴器	10	5%
声を出す	10	5%
指文字	7	3%
口話	6	3%
手話通訳	4	2%
身振り	4	2%
人工内耳	3	1%
音声認識アプリ	2	1%
家族の付き添い、支援	2	1%
その他	3	1%
無回答	86	41%
計	212	

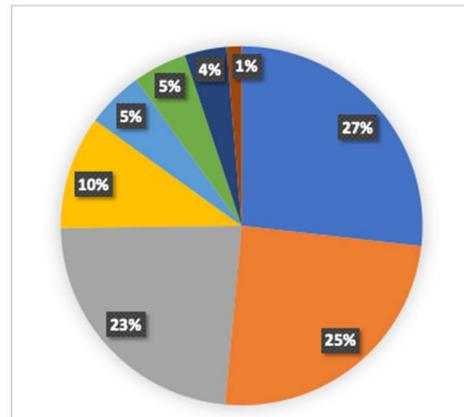


多い順に、筆談、手話、身振り、補聴器、声を出す、読話・・・となっている。

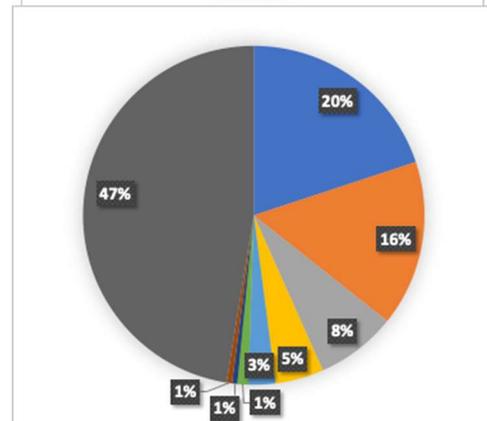
声を出す・読話は、いわゆる「口話」の方法である。おそらく手話を知らない人とは筆談、身振り、補聴器、口話で。手話のできる人とは手話と指文字で会話していると思われる。また手話通訳、要約筆記を依頼するケースもある。数は少ないが、コミュニケーションボードと音声認識アプリの利用、家族や介助者の支援を受ける例もみられる。

・また、連絡するときに使っているコミュニケーションツールのすべてに☑を付けて下さい。

11-3. 連絡するときに使っているコミュニケーションツール (複数回答)		
携帯電話、スマートフォンのメール	100	27%
FAX (ファックス)	92	25%
LINE (ライン)	87	23%
PCのメール	38	10%
スカイプ等のテレビ電話アプリ	19	5%
家族や介助者の支援を受ける	18	5%
電話リレーサービス	14	4%
無回答	5	1%
計	373	



11-4. 主に使っているコミュニケーションツール (自由記載)		
LINE	39	20%
スマートフォンのメール	31	16%
PCのメール	15	8%
FAX	9	5%
メール	5	3%
家族の支援	2	1%
電話リレーサービス	1	1%
紙に書く	1	1%
無回答	93	47%
計	196	



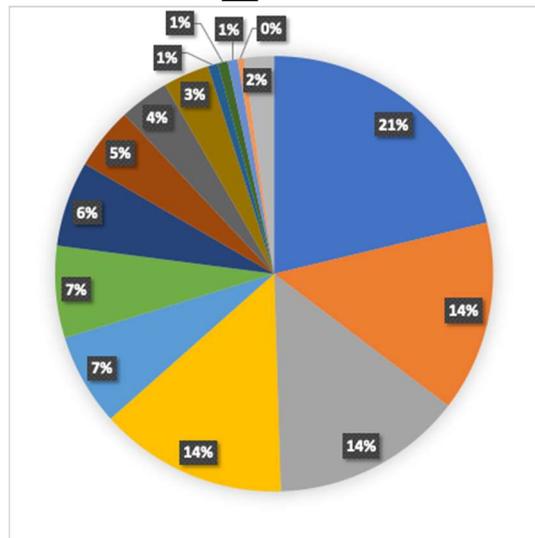
①LINEメール、②スマホのメール、③PCのメール、④FAX、⑤テレビ電話の順になっている。

LINEのメールが主流になってきている。FAXは、家庭に設置されている数は多いが、実際に使うことは減ってきているのではないかとと思われる。

電話リレーサービス利用、家族や支援者に連絡してもらう人は5%程度に留まっているが、電話リレーサービスは始まったばかりのツールなので、今後増えるだろうと思われる。一方で家族や支援者に連絡してもらう人も、一定数いることがわかる。

12. 平日の昼間はどのように過ごしていますか。いくつでも☑をつけてください。

活動	人数	割合
仕事	87	21%
家事 (炊事、洗濯、掃除等)	58	14%
テレビを見る	58	14%
買い物	57	14%
友達に会いに行く	28	7%
趣味	28	7%
ろうあ協会の行事に行く	26	6%
手話サークルに行く	19	5%
散歩やウォーキング	15	4%
家族に会いに行く	14	3%
デイサービス	3	1%
農作業、家庭菜園	3	1%
読書、新聞	3	1%
脳トレーニング、クイズ番組を見る	2	0%
その他	9	2%
計	410	



※その他回答：子供の世話、ジム、授業（学校）、ストレッチ、PCで資料作成、など

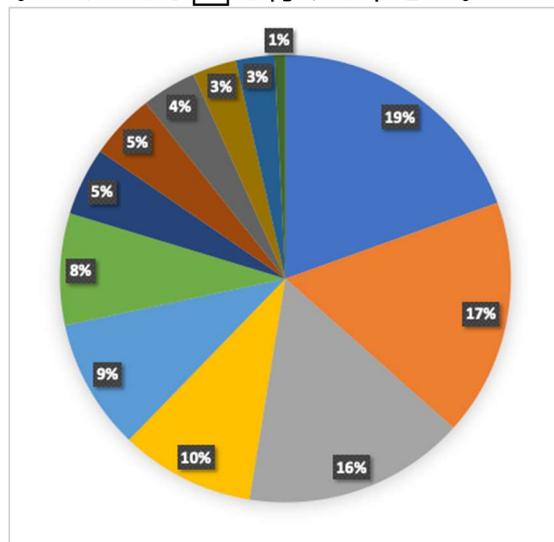
仕事、家事以外では、①買い物、②テレビを見る、③友達に会いに行く、④趣味、⑤ろうあ協会の行事に行く、⑥手話サークルに行く、⑦家族に会いに行という順番になっている。

仕事と家事を別にすれば、テレビを見る14%、買い物14%、この他、手話でおしゃべりできるという意味で、友達に会いに行く・ろうあ協会の行事に行く人が合計して13%。手話サークルに行く人は5%程度だが、設問が「昼間」なので昼間に活動している手話サークルは少ないため、回答もこの程度になっていると思われる。

趣味の中身は、読書、手芸、ネットも含めた映画鑑賞、パチンコ、ゲームなど。基本的には一人で楽しめるものが多いと思われる。

休日の昼間はどのように過ごしていますか。いくつでも☑を付けて下さい。

活動	人数	割合
買い物	99	19%
テレビを見る	87	17%
家事 (炊事、洗濯、掃除等)	81	16%
ろうあ協会の行事に行く	49	10%
友達に会いに行く	48	9%
趣味	41	8%
散歩やウォーキング	25	5%
家族、孫に会いに行く	24	5%
手話サークルに行く	20	4%
仕事	16	3%
その他	14	3%
無回答	4	1%
計	508	



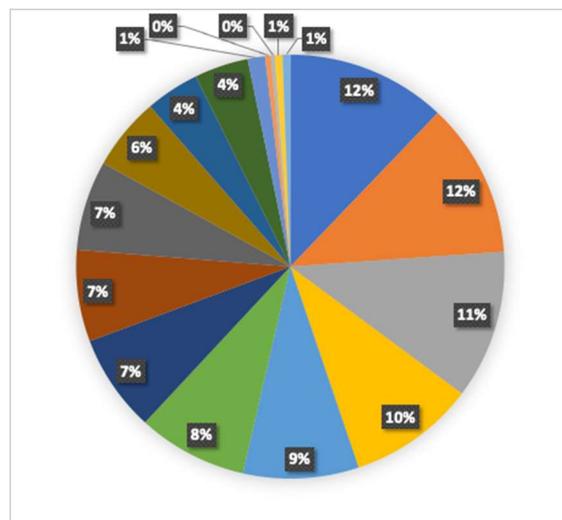
※その他回答：農業、子供の世話、部活、バイト、教会の礼拝、ドライブ、など

休日の場合は、①買い物、②テレビを見る、③家事、④友達に会いに行く、⑤ろうあ協会の行事に行く、⑥趣味、⑦散歩やウォーキングとなっている。

平日の昼間の回答と同じ傾向が見られる。買い物が19%、テレビを見る16%、手話でおしゃべりできる意味でのろうあ協会の行事と友達に会いに行く人が合計して19%と平日より増えている。手話サークルに行く人は4%と多くはないが、休日に活動する手話サークルはないため手話サークルの行事等が考えられる。

13. 生活の中で楽しみにしていることすべてにを付けて下さい。

項目	人数	割合
友人との手話でのおしゃべり	83	12%
買い物	81	12%
テレビ（録画したものも含めて）	78	11%
旅行	66	10%
ろうあ協会の行事でのおしゃべり	60	9%
外食	57	8%
家族とおしゃべりなどして過ごす	51	7%
手話サークルに行って手話でおしゃべりする	48	7%
映画・ネット配信動画	47	7%
趣味	38	6%
スポーツ	28	4%
畑仕事や園芸	28	4%
ペットのお世話	9	1%
読書、新聞	3	0%
編み物	2	0%
その他	4	1%
無回答	4	1%
計	687	



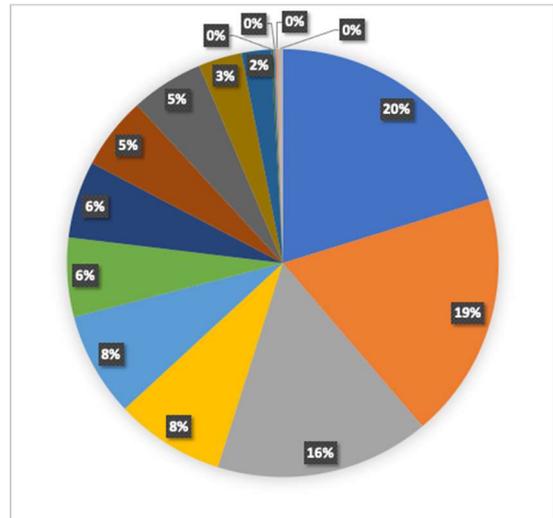
※その他回答：おうちご飯、デイサービス、生け花、脳トレ

①友人との手話でおしゃべり、②買い物、③テレビ、④旅行、⑤外食、⑥ろうあ協会での行事に参加、集まった友達と手話でおしゃべり、⑦手話サークルで会員と手話でおしゃべり、⑧ネットを含む映画鑑賞など。

友人と手話でおしゃべり、ろうあ協会の行事でのおしゃべりの他、旅行や外食も手話で話ができる人と行くことが想定されるので、これらを合計すると46%となり、やはり、手話でおしゃべりできることが大切な楽しみになっていることがうかがえる。

14. 生活に必要な情報をどんな方法で得ていますか。いくつでも○をつけてください

14. 生活に必要な情報の取得方法（複数回答）		
テレビのニュースや番組を見る	118	20%
富山ろう友を読んでいる	109	19%
一般紙（北日本新聞、読売新聞、朝日新聞など）を読んでいる	94	16%
日本聴力障害新聞や難聴団体の新聞・会報を読んでいる	48	8%
友達から教えてもらう	46	8%
インターネットのニュースを見る	35	6%
フェイスブック、ツイッターなどの投稿を見る	34	6%
ろうあ協会の行事やサロンで教えてもらう	32	5%
手話サークルで教えてもらう	32	5%
富山県聴覚障害者協会のホームページを見る	19	3%
全日本ろうあ連盟や難聴団体のホームページを見る	13	2%
家族（きこえる人）から教えてもらう	1	0%
仕事仲間(ろう者)との情報交換	1	0%
手話ニュース	1	0%
無回答	2	0%
計	585	

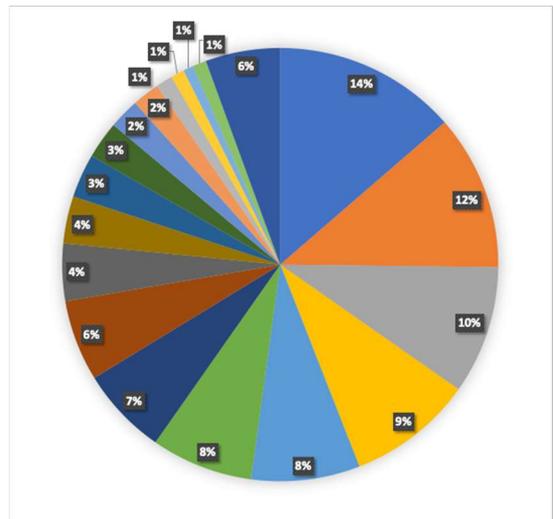


①富山ろう友、②テレビのニュースや番組、③一般紙、④日本聴力障害新聞、⑤友達から、⑥インターネットのニュース、またフェイスブックやツイッターなどのSNSとなっている。

人から教えてもらう場合は、友達、ろうあ協会の行事やサロンで、手話サークルで、という順になっている。

15. 生活で困っていることや不安に思っていることに、いくつでも○をつけて下さい。

15. 生活で困っていることや不安に思っていること（複数回答）		
災害の情報、避難	54	14%
買い物でのコミュニケーション	46	12%
近所との付き合い	38	10%
町内会などの地域の行事への参加	37	9%
家族とのコミュニケーション	32	8%
文を書いて伝える事	30	8%
テレビを見る	26	7%
誰に相談したらよいか分からない	24	6%
携帯電話、スマートフォンの使用	17	4%
案内や広報、新聞、手紙などを読むこと	14	4%
施設の利用	13	3%
交通方法	11	3%
手話通訳の利用	9	2%
ゴミ捨て	8	2%
学校や子どものことで相談したり話し合える人がいない	5	1%
子どもが通っている学校のこと	4	1%
要約筆記の利用	3	1%
その他	4	1%
無回答	22	6%
計	397	

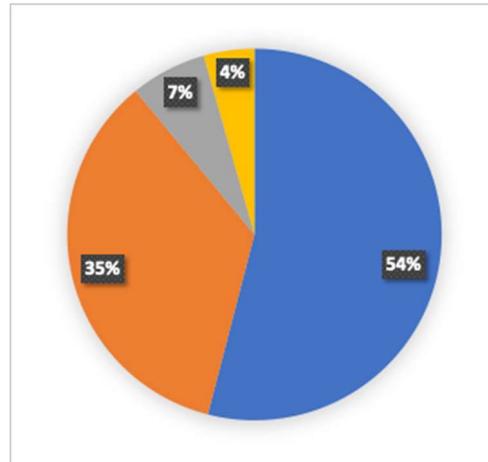


※その他回答：介護、火事、会社や仕事での悩み、夜中又は寝ているときに何かあっても分からない場合

①災害に関する情報、②買い物でのコミュニケーション、③近所との付き合い、④町内会などの地域の行事参加、⑤家族とのコミュニケーション、この他、テレビ放送へのアクセス、筆談で伝える事の苦手意識、スマホの使い方の悩みとともに、相談する人がいないという人も6%いる。

16. 健康ですか

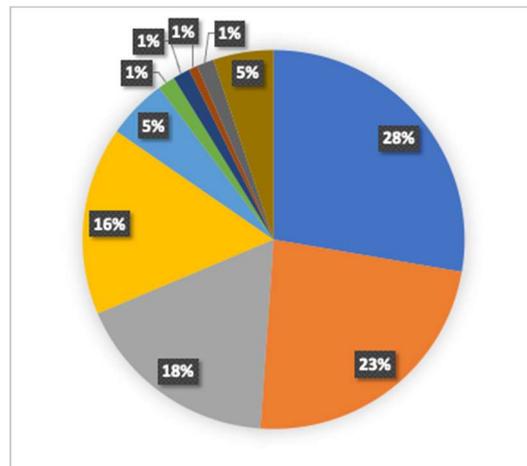
16. 健康ですか		
まあまあ健康である	74	54%
健康である	48	35%
あまり健康ではない	9	7%
無回答	6	4%
計	137	



まあまあ健康ではあるが、しだいに何らかの持病を持つ様子が見えてくる。

17. 現在、病院や医院（診療所・クリニック）に通院していますか

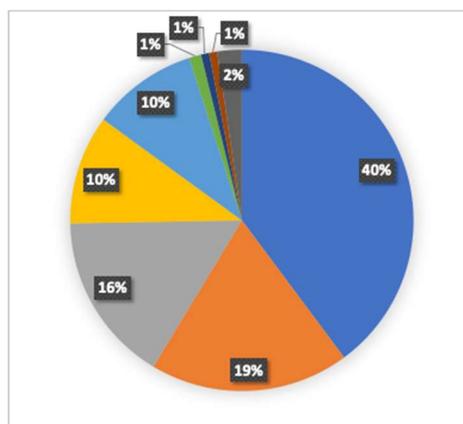
17. 現在、病院や医院（診療所・クリニック）に通院していますか		
月に1回	38	28%
していない	32	23%
2ヶ月に1回	24	18%
3ヶ月に1回	22	16%
月2～3回	7	5%
週1回以上	2	1%
半年に1回	2	1%
4ヶ月に1回	1	1%
定期検診	2	1%
無回答	7	5%
計	137	



月に1回を中心に、2ヶ月、3ヶ月に一度の定期的な通院をしている人が多い様子が見える。

18. 病院でのコミュニケーションはどうしていますか。使う方法すべてに☑をつけて下さい。

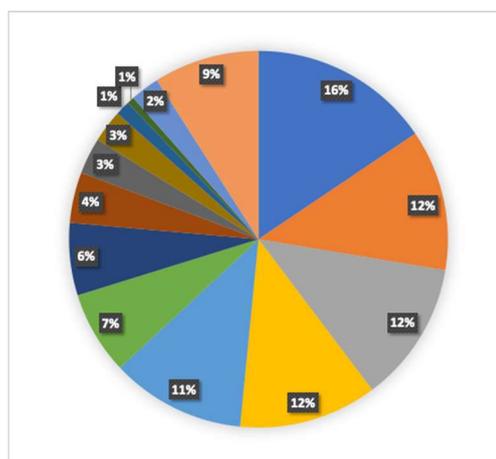
18. 病院でのコミュニケーションはどうしていますか (複数回答)		
筆談する	104	40%
手話通訳者を依頼	49	19%
口話で	42	16%
家族と一緒にいく	27	10%
身振りで	26	10%
聴覚活用 (補聴器、人工内耳)	3	1%
要約筆記者を依頼	2	1%
音声認識アプリ	2	1%
無回答	6	2%
計	261	



筆談が40%で最も多い。次が手話通訳者の派遣を依頼する19%、家族と一緒に行く10%という順番となっている。筆談する場合は、身振りや口話、補聴器も併用すると思われる。

19. 病気の時困ったことがあればいくつでも○をつけてください

19. 病気の時困ったことはありますか (複数回答)		
受付で名前を呼ばれても分からない	50	16%
自分で連絡ができない	39	12%
お医者さんとの話がうまくできない	39	12%
医者の説明が分からない	38	12%
受付の人、看護師さんとの話がうまくできない	37	11%
ない	23	7%
自分で病院に行けない	20	6%
自分の病気のことや薬について詳しく知ることができない	14	4%
手話通訳を依頼したが、手話通訳してもらった話が難しかった	10	3%
手話通訳を依頼しにくい	9	3%
手術のとき、保証人になってくれる人がいない	4	1%
要約筆記を依頼したが、要約筆記してもらった話が難しかった	2	1%
その他	8	2%
無回答	29	9%
計	322	



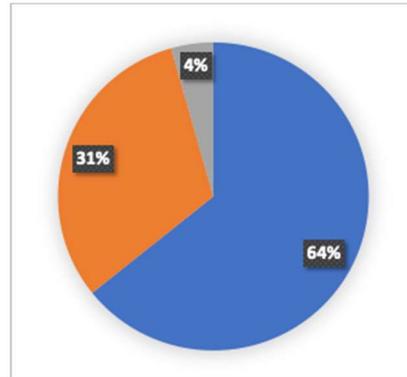
※その他回答: 要約筆記を依頼しにくい、コロナのため口話ができない、車がない、急に病院に行くことになった時に手話通訳を頼めない、など

受付で名前を呼ばれるときに困るという回答が最も多い。次に自分で連絡ができない、医者との会話や説明が分からない、受付の人・看護師との会話のうまいできないという回答が続く。

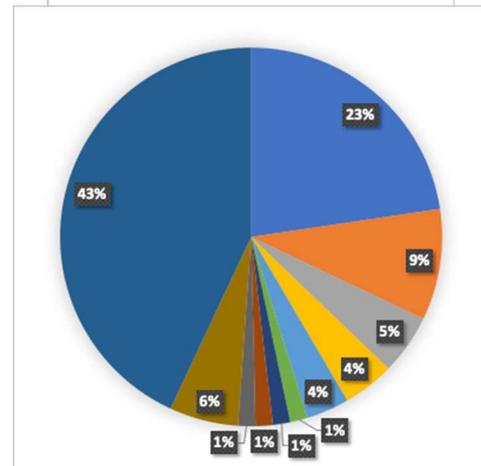
他に、自分で病院に行けない、自分の病気や薬についてよく分からないという回答や、手話通訳派遣を依頼したが、よく分からなかったとか、依頼しにくいという回答もみられた。

20. あなたは仕事をしていますか。

20. あなたは仕事をしていますか		
している	88	64%
していない	43	31%
無回答	6	4%
計	137	



20-1. どんな仕事ですか		
技能工、製造、建設、及び労務	31	23%
事務	13	9%
サービス業	7	5%
組合・団体	6	4%
専門的、技術的職業	5	4%
公務員	2	1%
農林漁業	2	1%
食器洗浄	2	1%
教育関係	2	1%
その他	8	6%
無回答	59	43%
計	137	

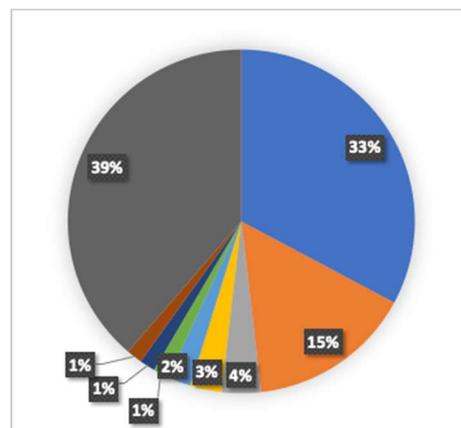


※その他回答：金融・保険、A級作業所、運搬、軽作業、縫製、など。

仕事をしている人が64%となっている。
技能工、事務関係が多いが、職種は多岐にわたる。

21. 仕事をしている人に質問します。職場での身分は何ですか

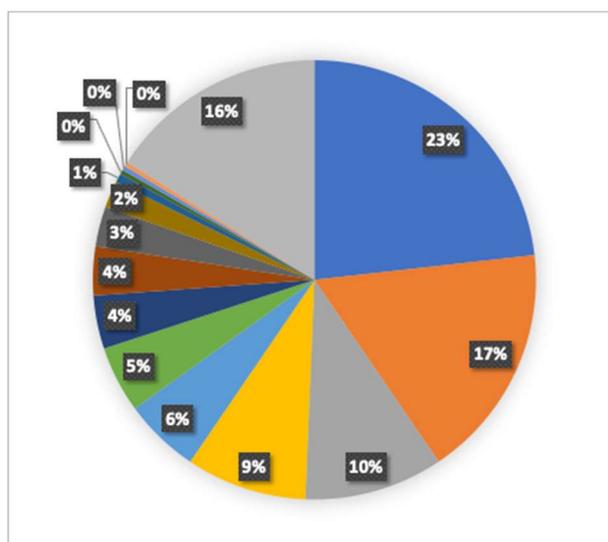
21. 職場での身分		
正社員・正職員	45	33%
パート	21	15%
嘱託	5	4%
アルバイト	4	3%
準社員	3	2%
公務員	2	1%
契約社員	2	1%
自営	2	1%
無回答	53	39%
計	137	



正職員は45人で全体の33%となっている。

22. 仕事をしている人に質問します。職場でのコミュニケーションの方法は何ですか。いくつでもをつけてください

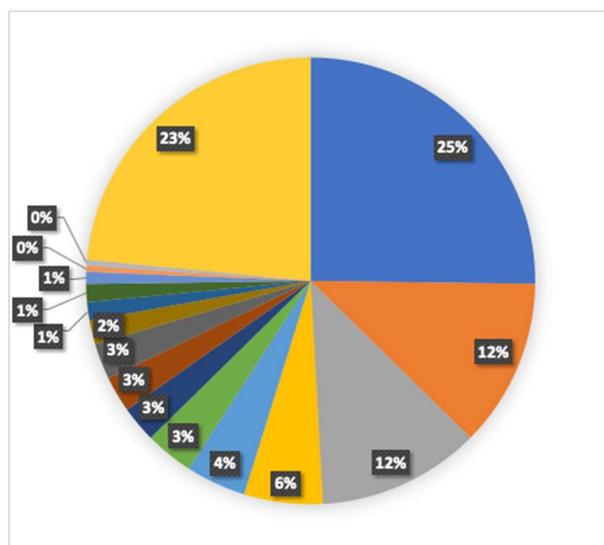
方法	人数	割合
筆談	71	23%
口話	53	17%
身振り	31	10%
手話	27	9%
メモ	17	6%
携帯電話、スマートフォンメール	15	5%
Eメール	12	4%
聴力活用	11	4%
空文字	9	3%
指文字	6	2%
音声認識	2	1%
コミュニケーションボード	1	0%
人工内耳	1	0%
PCを使ったノートテイク	1	0%
無回答	49	16%
計	306	



①筆談、②口話、③身振りとなっており、次が手話ではあるが、簡単な手話を使う、指文字を使う程度であるか、または同じろう者同士では手話と分かれているのではないかと思われる。

職場での、打合せ、会議、研修会などでのコミュニケーションの方法は何ですか。いくつでもをつけてください

方法	人数	割合
筆談・ノートテイク	58	25%
後でプリントまたはメールをもらう	28	12%
口話	27	12%
手話	13	6%
身振り	10	4%
聴力活用	8	3%
指文字	6	3%
手話通訳できる人に手話通訳してもらう	6	3%
会社が手話通訳派遣を依頼してくれる	6	3%
会社が要約筆記派遣を依頼してくれる	4	2%
空文字	3	1%
音声認識	3	1%
PPT (OHP)	2	1%
人工内耳	1	0%
参加しない	1	0%
無回答	54	23%
計	230	

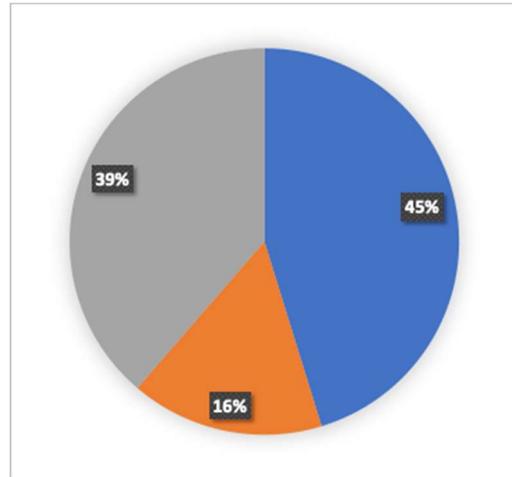


①筆談、ノートテイク、②口話、③後でプリントやメールをもらうことが多い。手話、指文字が使える人は使ってもらう、手話通訳できる人がいる時は頼む、という様子の他、手話通訳派遣を利用する人が6人はいた。

その他、いろいろなツールを利用している。

23. 職場で理解がないと思ったり、差別を受けたりしたことがありますか。

23. 職場で理解がないと思ったり、差別を受けたりしたことはありますか		
ない	62	45%
ある	22	16%
無回答	53	39%
計	137	



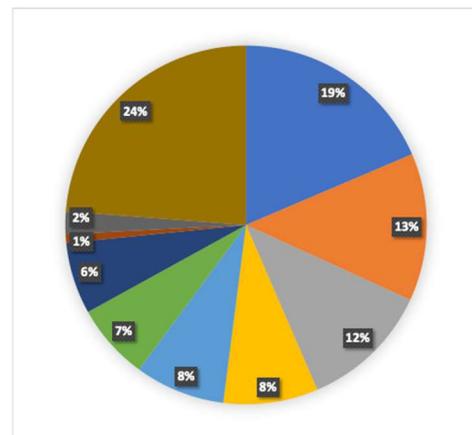
	ある	ない	無回答	合計
20歳～29歳	1	4	0	5
30歳～39歳	5	7	0	12
40歳～49歳	10	7	3	20
50歳～59歳	3	12	4	19
	19	30	7	56
	34%	54%	13%	

職場で理解がないと思ったり、差別を受けたりした事がある人は全体では16%と
思ったより少ない回答になっている。そこで現在は仕事をしていない高齢者の回答
を外し、59歳までの年齢層の56人に絞ってみると、「ある」と回答した人が19人、
34%と増えた。40歳～49歳の年齢層の人が、一番「ある」と答えた割合が高い。上
からも下からも関わりが難しい様子になっていることもあると思われる。

次の設問で、どのような理解、配慮を希望するかの回答を見ると、59歳までの56
人の中で回答した人が82.1% (46人) にのぼった。

24. 職場ではどのような理解・配慮を希望しますか。いくつかでも○をつけてください

24. 職場ではどのような理解・配慮を希望しますか (複数回答)		
聞こえない・聞こえにくいことについてもっと理解して欲しい	46	19%
コミュニケーションがとれるよう筆談して欲しい	33	13%
コミュニケーションがとれるよう手話を覚えて欲しい	29	12%
気軽に相談できる用意をして欲しい	21	8%
アナウンスなどによる連絡は必ず筆談または手話で伝えて欲しい	20	8%
文章を読んで理解することが難しいことを理解して欲しい	17	7%
手話通訳者の派遣を希望したら対応して欲しい	16	6%
要約筆記者の派遣を希望したら対応して欲しい	2	1%
その他	5	2%
無回答	59	24%
計	248	



※その他回答

- ・スマホ持っていて手話出来ない人には音声認識アプリを使ってもらいたい
- ・コロナ禍によりマスクで会話が不自由になっている
- ・掲示板を活用して、見える化にしてほしい

- ・上司や部長に相談できること
- ・朝会での話の内容が知りたい

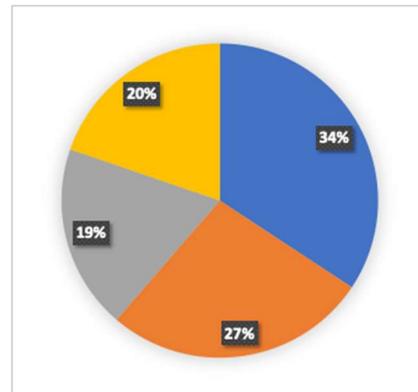
①聞こえない、聞こえにくいことへの理解がない、②筆談して欲しい、③手話を覚えて欲しいと思っている人が多いことが分かる。

また、音声による案内や連絡を文字でもしてほしい、気軽に相談できる場が欲しい、文章が苦手なことを理解して欲しいという要望が多い。

手話通訳者、要約筆記者派遣の要望も多い。

25. 意思疎通支援事業の利用について

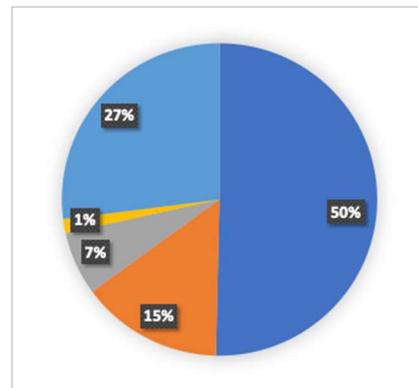
25-1. 意思疎通支援事業/手話通訳は利用しますか		
少し利用する	47	34%
利用したことはない	37	27%
よく利用する	26	19%
無回答	27	20%
計	137	



・手話通訳は利用しますか

よく利用する人が19%、少し利用する人が34%。合計して53%となった。依頼した事がないという27%の人への利用を広げていくことが課題となる。

25-2. 意思疎通支援事業/要約筆記は利用しますか		
利用したことはない	69	50%
少し利用する	20	15%
よく利用する	9	7%
その他	2	1%
無回答	37	27%
計	137	

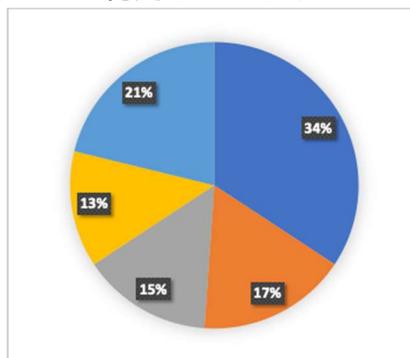


・要約筆記は利用しますか

まだまだ手話通訳に比べると利用が少ないことが表れている。よく利用する、少し利用する、合わせて22%であった。手話通訳者利用の半分以下となった。要約筆記を個人で依頼できる人、依頼できる場を増やしていく必要がある。

26. IT(情報通信)の利用について インターネットは利用していますか

26-1. IT (情報通信) の利用について/ インターネットは利用していますか		
よく利用している	47	34%
パソコンを持っていない	23	17%
あまり利用していない	20	15%
時々利用している	18	13%
無回答	29	21%
計	137	

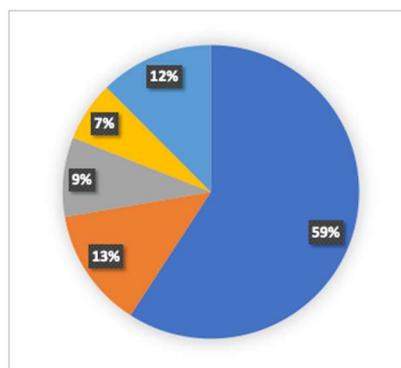


よく利用している人、時々利用している人合計して47%となった。パソコンを持っていない人が17%いるが、スマホを持っていればインターネット活用していることになるので、この設問では、全くインターネットを利用していない人がどのくらいいるかは不明。

次の設問でスマホを持っていないと回答した12人おり、この数がインターネット利用していない人と言えるのではないかとと思われる。

・携帯電話、スマートフォンは利用していますか

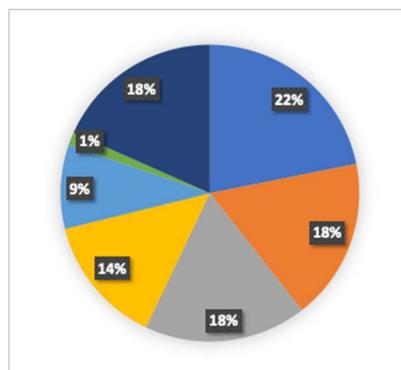
26-2. IT (情報通信) の利用について/ 携帯電話、スマートフォンは利用していますか		
よく利用している	81	59%
時々利用している	18	13%
持っていない	12	9%
あまり利用していない	9	7%
無回答	17	12%
計	137	



よく利用している、時々利用している人を合計して72%となった。持っていない人が上述したように12人、9% (12人) となっている。

・電話リレーサービスは利用していますか

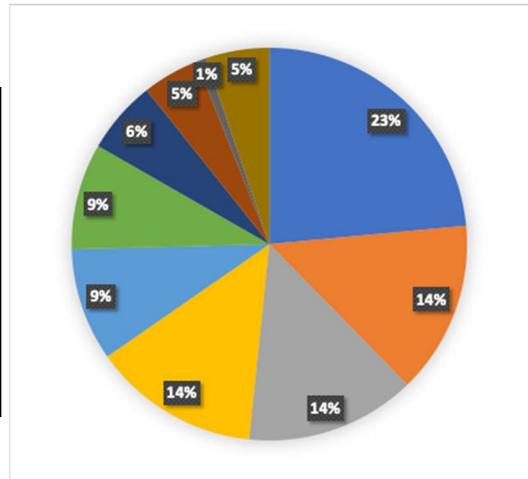
26-3. IT (情報通信) の利用について/ 電話リレーサービスは利用していますか (複数回答)		
よく分からない	31	22%
あまり利用していない	25	18%
利用する気持ちはない	25	18%
まだ登録していないが、登録したいと思っている	20	14%
時々利用している	13	9%
よく利用している	2	1%
無回答	26	18%
計	142	



よく利用している人はまだ2人と少ないが、利用している人は合計して10% (15人) となった。今後登録を考えている人が14% (20人)。全く利用する気持ちはない人も18%いる。よくわからないという人が22%で一番多い割合となった。

27. 情報アクセス(TV、映画、交通など)について希望することは何でしょうか いくつかでも○をつけてください

27. 情報アクセスについて希望すること（複数回答）		
テレビ放送の全てに字幕をつけて欲しい	86	23%
映画の字幕版上映の期間を長くして欲しい	52	14%
テレビ放送に手話や手話通訳を増やして欲しい	51	14%
交通の遅延情報などは文字でも案内して欲しい	50	14%
イベント、講演会などで手話通訳や要約筆記を用意して欲しい	34	9%
交通情報の問い合わせはメールでもできるようにして欲しい	32	9%
ツアー募集のとき、聴覚障害者だけの参加を受け入れて欲しい	22	6%
電話リレーサービスを使いやすくして欲しい	17	5%
その他	3	1%
無回答	19	5%
計	366	



※その他回答

- ・磁気ループを使えるようにして欲しい
- ・邦画に字幕をつけて欲しい
- ・通訳者のワイプをもっと大きくして欲しい

テレビ放送に字幕の要望が23%と一番多い。テレビに手話、手話通訳の要望も14%となった。この他、映画が字幕付きで見られるようにして欲しいこと、交通の遅延情報などを文字ですぐに分かるようにして欲しいという要望が多い。またイベントや講演会での手話通訳、要約筆記も一定の要望がある。またツアーで聴覚障害者だけの申込が認められるかどうかの不安が大きい。

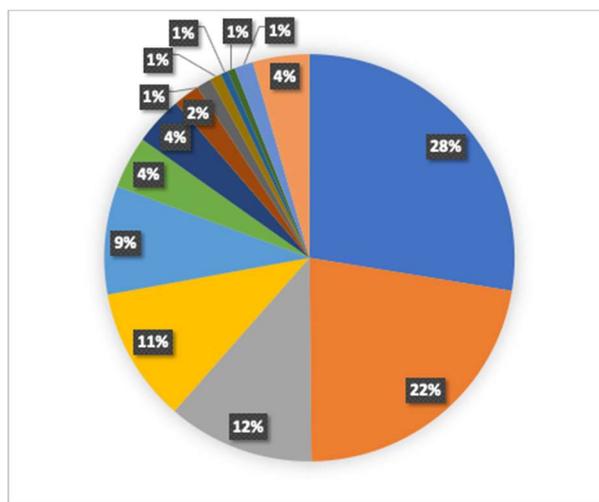
他、電話リレーサービスが使いにくいという回答があった。

字幕、手話を付けて欲しい番組の希望では、まずはローカルも含めたニュース全般が求められている。次に生放送に字幕、手話の希望が多い。

スポーツ番組、バラエティ、国政関係の名前も出ている。

28. あなたが相談したいと思ったときや何か聞きたいときの方法はどうしていますか。いくつでも○をつけてください

家族・親戚に聞く	93	28%
友人に聞く	75	22%
聴覚障害者センターに相談する	39	12%
聴覚障害者協会の会員に聞く	36	11%
手話サークルの会員に聞く	29	9%
設置手話通訳者に聞く	14	4%
役場の職員に聞く	13	4%
福祉施設の職員に聞く	7	2%
近所の人に聞く	4	1%
身体障害者相談員に聞く	3	1%
ケアマネージャーに聞く	2	1%
いない	2	1%
その他	5	1%
無回答	15	4%
計	337	



※その他回答：ネットで調べる、臨床心理士、前職場の人、恋人、デイサービスのスタッフ

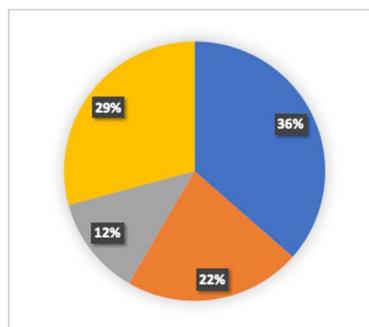
一番は家族・親戚となった。やはり、大切なのは家族・親戚との繋がりということが分かる。次に友人・聴覚障害者協会の会員に聞く、つまり同じ聞こえない親しい人に聞く、この二つが中心になっている。

この他、聴覚障害者センターに行って相談する人が12%。手話サークルの会員に聞く人が9%。設置手話通訳者に聞く、身体障害者相談員に聞くなど。

数は少ないが、近所の人に聞く、役場の職員に聞く、福祉施設の職員に聞くという回答もみられた。

29. 障害者総合支援法による福祉サービスを利用していますか。

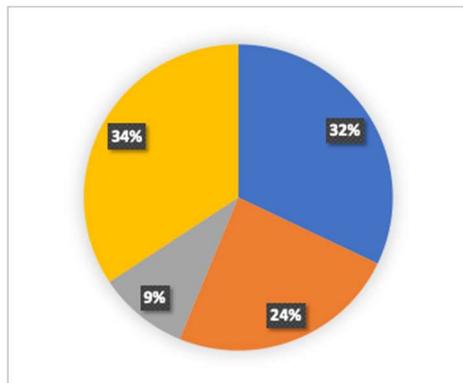
利用したいが、どんな福祉サービスがあるか知らない	50	36%
利用したいと思わない	30	22%
利用している	17	12%
無回答	40	29%
計	137	



利用している人は12%の回答になったが、おそらく、具体的にどのようなサービスが福祉サービスであるか、きちんと理解している人は少ないとみられる。

30. 介護保険制度によるサービスを利用していますか。

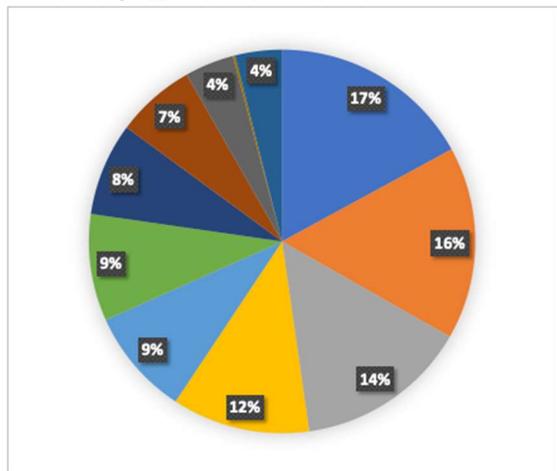
30. 介護保険制度によるサービスを利用していますか		
利用したいと思わない	44	32%
利用したいが、どんな介護サービスがあるか知らない	33	24%
利用している	13	9%
無回答	47	34%
計	137	



障害福祉サービス以上に、きちんと理解している人は少ないと思われる。利用している人は9%。

31. 災害に対して必要と思うことは何ですか。いくつでも○をつけてください

31. 災害に対して必要と思うこと (複数回答)		
テレビでの気象予報、災害情報などには字幕を付けて欲しい	87	17%
災害情報、避難指示などが分かるようにして欲しい	83	16%
避難所で聞こえない・聞こえにくい人への配慮が欲しい	74	14%
テレビでの気象予報、災害情報などには手話通訳を付けて欲しい	59	12%
災害支援や復興などの情報が見て分かるようにして欲しい	46	9%
万一のとき、手話通訳・要約筆記依頼ができるようにして欲しい	46	9%
避難所がどこにあるか分かるようにして欲しい	40	8%
避難訓練は毎年、手話通訳・情報保障付きで行って欲しい	34	7%
遠隔手話通訳、遠隔要約筆記が使いやすいようにして欲しい	21	4%
高齢で一人の時は避難場所まで一人で行けない	1	0%
無回答	20	4%
計	511	



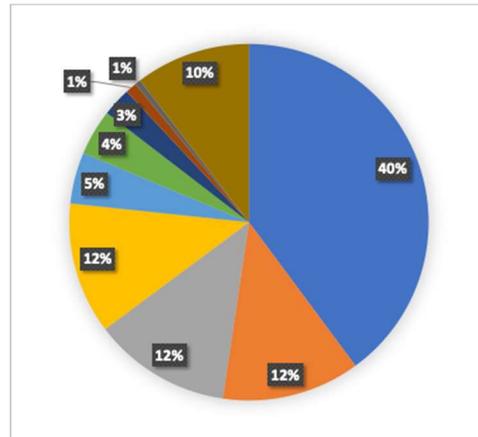
関心が高いことがうかがえる。テレビでの手話通訳、字幕はおそらくローカル放送に対しても言えることだと考えられる。災害の場合は字幕よりも手話の方が分かりやすく要望が多い。

また、自宅の地域が避難指示対象になったときに、きちんと伝えてもらえるのか、万一の時の意思疎通支援が保障されるかどうかの不安から、遠隔手話通訳も含めて大きく要望がある。

そのため毎年の意思疎通支援付での避難訓練の積み重ねが大事と考える人が7%となった。

32. 富山県聴覚障害者センターを利用していますか、いくつでも○をつけてください

利用方法	人数	割合
協会の行事などで利用する	77	40%
手話通訳者派遣の依頼で利用する	24	12%
ほとんど行ったことがない	24	12%
相談に利用する	23	12%
映像ライブラリーを利用する	9	5%
行きにくい	8	4%
要約筆記者派遣の依頼で利用する	5	3%
知らなかった	2	1%
手話サークルの時に行く	1	1%
無回答	20	10%
計	193	

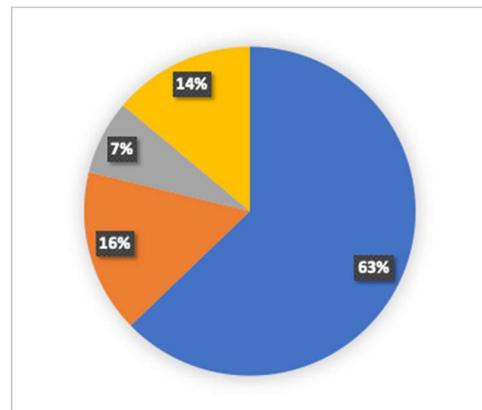


協会の行事などで利用する人がやはり一番多い。次に手話通訳派遣の依頼、相談、映像ライブラリーの順番で利用されている。

ほとんど行ったことがない人も12%いる。理由としては、現在はコロナ禍のため行かない人や、交通の便がないために行けないことが多いと思われる。これは設問が「行きにくい」という表現だったからかもしれない。「利用しにくい」としたらどんな回答があるか、県内様々な聴覚障害者の社会参加支援施設としての役割を果たす上で、検証が必要と思われる。

33. 聴覚障害者に配慮したディサービス「大きな手小さな手」を知っていますか

回答内容	人数	割合
知っている	86	63%
よく知らない	22	16%
今後利用する機会があれば利用したいと思う	10	7%
無回答	19	14%
計	137	

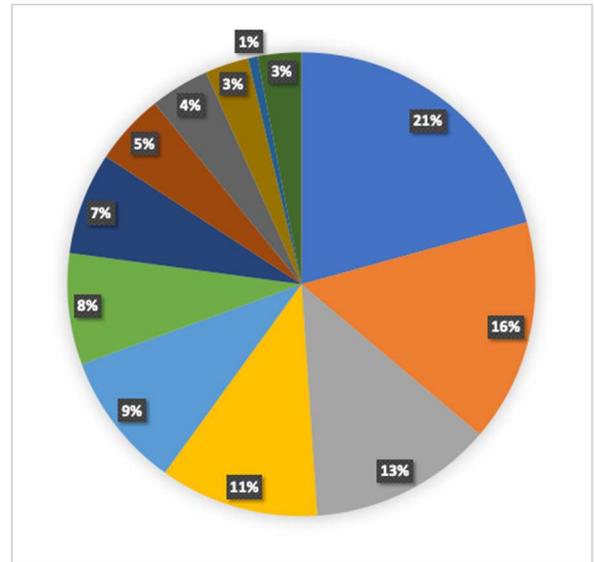


利用を考えている人は少数に留まっているが、広く知られているようだ。

名前だけでなく、どんな内容で利用できるのかの理解を広げていく必要があると思われる。

34. 今後、あなたや聴覚障害の仲間が安心して暮らすために、富山県内で必要と思うことについて、いくつでも○をつけてください。

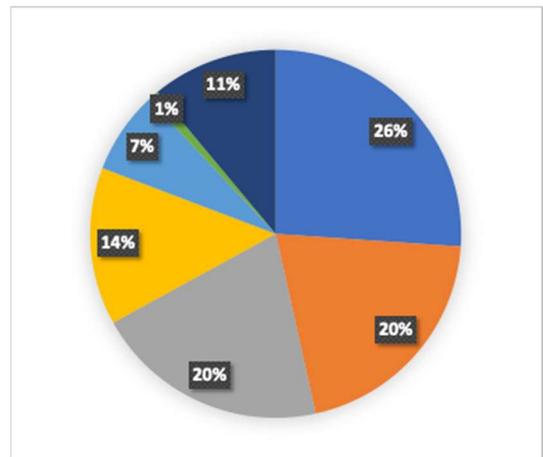
必要と思うこと	件数	割合
聴覚障害者と話ができる人を増やす	96	21%
災害や事故にあったとき、いつでも安心して手話通訳や要約筆記を依頼できる	72	16%
サロンなど同じ仲間が集まって過ごせる場	59	13%
よく使う施設（病院、駅、商業施設など）に見て分かりやすい案内を増やす	51	11%
同じ仲間と一緒に暮らせる施設を作る（グループホーム、老人ホームなど）	44	9%
暮らしや福祉・医療の相談ができる場	36	8%
24時間対応する手話通訳等派遣センター（遠隔派遣含む）	33	7%
送迎、買い物の支援	23	5%
聞こえや補聴器の相談ができる場	19	4%
引きこもりがちな人を連れ出してくれる支援	14	3%
その他	3	1%
無回答	14	3%
計	464	



※その他回答

- ・ SNSなどを活用した情報発信 ・ 民生委員の訪問
- ・ 聴覚障害に理解のある臨床心理士、ソーシャルワーカーなどの配置

話ができる人	件数	割合
手話ができる人	83	26%
手話ができる看護師、介護職	65	20%
手話通訳者	65	20%
手話サークル会員	44	14%
要約筆記通訳者	23	7%
その他	3	1%
無回答	35	11%
計	318	



※その他回答

- ・ 聴覚障害への理解のある人を増やしてほしい
- ・ 聴覚障害者全てが会員になること
- ・ 手話ができる人にバッジをみてわかってほしい

「聴覚障害者と話しができる人を増やす」回答が21%と一番多い。その内訳は、手話ができる人、看護師や介護職員、手話通訳者、手話サークル会員、要約筆記者となっている。

次に多いのが、「災害や事故に遭ったときの意思疎通支援の保障があること」16%、「サロンなど同じ仲間が集まって過ごせる場」13%、「よく使う施設で見て分かりやすい案内を増やす」11%、「同じ仲間と一緒に暮らせる施設」9%、「暮らしや福祉・医療の相談ができる場」8%の順になっている。

この他、万一のための「24時間対応する手話通訳派遣センター・遠隔手話通訳」や「聞こえや補聴器の相談ができる場」、交通の便がないため、「送迎や買い物の支援が必要」ということも出された。

35. あなたが日常生活で困っていること、心配なこと、希望することなどを自由にお書きください

- レジ袋が有料になってから、店員さんとの会話量が増えた。マニュアルに沿って話しているので、会話の流れを覚えれば困ることはないが、たまに想像つかないことを言われるとわからないことがある。以前、雑貨店で買い物をしたとき「ご自宅用ですか？」と言われたのだが、何度聞き返しても分からず、「はい」と返事をしたことがある。筆談をお願いすれば良かったのだが。私は補聴器をかければまだ会話はできるので、声で会話をしないろうの方は買い物で大変な思いをされている方もいるのではと思った。
- ここ2年間はマスク会話がほとんどなので意思疎通が非常に難しい。
- 私自身は人工内耳装着で、ある程度生活できておりますが、複数の人たちの会話、音楽、観劇、会社の電話は全く無理です。来年3月で会社との契約が終わります、次の仕事が見つかるかとても不安です。家庭の事情でどうしてもある程度の収入が必要です。悩んでおります。
- 災害があった場合、人工内耳や補聴器の電池がなくなると聞こえなくなります。普通の暮らしに戻るまでの間、全く聞こえなくても生活していけるのかどうか不安です。またそういった状況でも手伝えることがあれば参加したいのですが、難しく感じます。
- 人工内耳の効果は全般的に、かなりあるが、家族だけは通じにくい。電話が十分聞き取れない。5割から7割位、何回も何回も聞き返し、確認を要する。
- スーパーやコンビニにコミュニケーションボードがどこにでも設置されてほしい。愛知県知立市のコンビニで実施しているようですが、全国のコンビニで、広まって欲しい。
- コロナでマスクをつけないといけない生活で、口の形を読み取る私にとってコミュニケーションが不便。透明マスクを増やして欲しい。
- 本人の家族から
アンケートの内容が難しい。内容をよく理解できないようで、違うところに○を書いていた。家族がサポートするのも難しかった。
- 私は視力障害もあるため、自動車運転免許がとれません。
近くのバス停、コンビニ、スーパーまで1キロメートル歩くことが大変です。
いつも親に頼んで出かけています。気楽に本屋やコンビニに行ったりすることが出来ません。今は親に頼めば、動いてくれますが、誰かに頼んだり、理由を伝えたり

するのは面倒だし、気を使います。早く自動運転ができる車が完成し、私にその車を売って欲しいです。

私も歳とっていきます。同じ障害のある方々と理解ある職員がいる施設もあつたら良いなあと思っています。

- 保険会社、クレジットカードの申請をするときに確認のため電話が必要と言われた。本人確認ができないと言われ、FAXでも対応できればこちらは助かると思います。

- 会話が苦手です。人間関係に困ります。職場、スーパー、銀行など不安です。

- 固定電話の留守電の音声をスマホのアプリかタブレットの音声認識アプリで文字変換できないかな。

カーナビの音声をスマホやタブレットで文字に変換できれば分かりやすいと思います。

ドライブスルーを利用する際、マイクによる音声会話が通じない。タッチパネルみたいなものを設置してほしいと思っています。

町内の電柱に設置してあるスピーカーからの防災情報が聞こえないため災害がおきたときわかりにくい。

- 相続問題で難しい専門用語があり、分からないなど、いくつもの問題を抱えています。解決するのは勇気がいるので聴覚障害者である私には困難です。家族のサポートはあるが、どうしたいのか？ 自分自身で決めるのは難しいです。それと話の食い違いとか信用できない部分もあります。富山県にろう者の弁護士いたらいいですね。

「障害者総合支援法」「介護保険制度」によるサービスとは、どんな何の仕事がわかりません。色々なことを教えてほしい。

- 不便なことが多い。手話通訳ができる人が一緒にいれば安心。

- 夜寝ているときに大きな地震が起こった時、気づかないとか、すぐ近くに火事があった時の消防車のサイレンが聞こえないことが不安です。

- お店のレジで店員さんから何か言われるが分からないときがある。

子供のPTAや地域の役員に選ばれるのが一番困る。聞こえないので役員になるのはどうかと思う。まったく情報が入ってこないので何もできません。周りのお母さんたちは大丈夫って言うけれど本当に大丈夫なのか分かりません。聞こえないからできないことを分かってもらうにはどうすればいいのでしょうか。中学・高校PTAの役員を断る方法を知りたいと思いました。

- 富山県聴覚障害者協会は、未来を考えずに、今だけしか見てないよう思います。今のままでは会員は減り続けます。青年部は特に危機状態です。協会の会員拡大サミ

ットでは、会員を増やす為にはどうすればいいかを考える場だと思っていた、しかし、会員の未支払いを確認、催促を話し合うだけ。今だけしか見てないのにちょっと違和感を持ちました。

- なかなか障害者手帳がもらえない。6級のハードルが高い。
- 銀行、郵便局に行くと耳が聞こえないと伝えても筆談してくれず、声で会話しようとされてしまう。聞こえない、聞こえにくいのを理解してほしい。
電車のアナウンス分かりにくい。分かる方法がなく困ってしまう。
何か申し込むときどうしても電話じゃないとダメなものがあり、聴覚障害者に対しての対策を増やしてくれたらありがたいです。
- 聞こえない人との意思疎通方法には、音声認識アプリもある事を広めて欲しい。今まで手話等が使えなくて聴覚障害者との意思疎通に戸惑いを感じていた人にはとても便利なアプリだとは思う。しかし、「これがあれば手話いらないね」と言われるのは違う。そうではなく、手話を必要としている人がいること、その理由も理解したうえで音声認識アプリを利用して欲しいと思っています。聞こえない人でも手話が出来ない人は大勢いることを知らしめて欲しいですね。
- 聞こえる人と聴覚障害者との対話はどうしても短くなるのが気になる。聞こえる人同士の対話だと長いのに。
- 要約筆記者に遠隔要約筆記の方法を学習してほしい。zoom の使い方などパソコンやスマートフォンで zoom を使えるように講習会を開いてほしい。その上で、遠隔要約の方法もできるようになって欲しい。
- 手話ができなくても、筆談に応じてくれれば良いです。テレビ、広告、工場や店の看板など、日本語ではなく、英語、ローマ字、カタカナ語がはやっていますが、意味が分からないことが多いです。

総論

①障害の理解のために

聞こえないこと、聞こえにくいことを知ってもらい、かつどのように対応したら良いかを理解して欲しいということが、まだまだ広まっていない。

音声で会話ができないと分かると、距離をおかれてしまったり、必要なことを伝えるだけで終わったりする事が多い。

難聴者や中途失聴者の場合、補聴器を装用(あるいは人工内耳を装着)してある程度聞こえる。また声を出せる。しかし、そのことが聞こえる人にとっては、聞こえる人と同じと思われ「聞こえにくい」ことが理解されにくく、「分からない」と言っても声で話されることが多いという悩みがある。筆談で快く対応してくれる人が増えているが、もっともっと増やしていかなければならない。

また手話を必要としている人にとっては、ぜひ日常会話の初歩の手話を覚えて使って欲しいという気持ちを持っている。

調査委員会での協議の中で、自宅に訪問があるときの対応の工夫が報告された。普通は、訪問者に対して「聞こえない」と言えば、そこで訪問者は退去してしまう。これでは聞こえないと会話はできないものという考え方が固定される。用紙や筆談ボードなどを用意しておいて、必ず「聞こえないので書いてください」と伝えて書いてもらうようにする事例が報告された。こうした対応で、聞こえないときは筆談すれば良いという理解を持つ人を増やせる。こうした積極的な対応ができるよう、いろいろな事例を知ってもらうことが必要といえる。

人と人が会話することは「社会的な関係」であるが、聴覚障害者と聞こえる人の会話のきっかけのためには、もっとお互いのことを知る事が大切という話しも出された。引っ込み思案ではなく、気軽に会話し、ちょっとした冗談が言えたりするよう社会的な関係を太くするための関わり合いを意識的に増やしていくことが大切である。

②安心して暮らすために

生活の様々な場面で、具体的に不安があり、このようにして欲しいというニーズがある程度把握できた。何かあったときに聞いたり、相談したりする人がいるかどうかでは、家族や親戚が一番多かった。しかし、きちんとした相談をするためには、聴覚障害者センターに相談する、手話通訳者と相談する、手話サークルの聞こえる会員に相談することが必要となる。また万一の災害では、近くの人々の支援が大切であり、近所や町内会での付き合いをどのように確保していくかが課題と指摘された。

●地域との関わり

個別のヒヤリングの中で、同じアパートに住んでいる人が手話サークルに入会され手話を学ばれた。その人との会話を通じて地域の情報が分かり、住民との交流も増えた。手話に興味を持ち学び始めた人も出たとの事例があった。地域の関わりにおいて、一人でも理解のある人がいれば、その人を通して地域の情報が入り、交流

できることがうかがわれた。隣人、町内会の役員、手話に関心のある人など様々なケースが考えられる。町内会での会合や行事などに、手話通訳や要約筆記を依頼して参加するという積極的な姿勢によって、地域の人達の見方も変わってきたという事例もあった。

●買い物

生活において買い物の場面が多いことが今回の調査で分かった。自由記述では、コロナ禍のためマスク着用が新しい生活様式とされていることから、特にコンビニでの店員との会話に困ったという声が多い。コミュニケーションボードを用意して、「温めますか」「箸はつけますか」「袋は必要ですか」などの問いかけを文字で確認できる取り組みが増えている。富山県においても手話言語条例のある滑川市で実施されている。富山県聴覚障害者協会では、県内のコンビニにこうしたコミュニケーションボードを用意することを検討している。支払いの方法も現金からキャッシュレス化に変わってきている。コロナ禍による非接触というメリットもあり、デジタル社会の進展とも相まって、様々なキャッシュレス支払が増えているが、キャッシュレスについての情報が入手困難であるとか、手続きに音声電話が必要とか、専用端末の読み取り時の音が分からないなどの不便さが報告されている。

携帯電話ショップなどで遠隔手話サービス対応するなどの進展もあるが、安心して楽しく買い物するための課題を整理し解決に向けた取組が必要である。

●防災、災害時の対応について

災害に関する関心が高いことが分かった。手話普及の取り組みの中で、地域にいる民生委員と顔なじみとなり、災害など何かあったときの情報提供や支援の不安が軽減されたとの事例報告があった。民生委員が誰か分からない人が多いと思われるが、上述した地域の関わりのように取り組んでいくことが大切である。

③就労について

職場でのコミュニケーション、連絡方法を見ると、口話、筆談、メール等の文字連絡の方法が多いことが分かる。個別のヒヤリングにおいて、上司に理解があり、朝の連絡会での伝達事項は必ずプリントしてもらっている、病欠の連絡はスマートフォンのメールでスムーズにできるなどにより安心して働けるとの事例の報告があった。また職場で手話学習の機会を作るようアドバイスした上司もおり、全国手話検定試験の受験もチャレンジしているという事例報告もあった。一方で、声が出せるため、「聞き取りにくいので筆談して欲しい」と何度も訴えても対応してくれないという不満が大きいという声がある。

障害者差別解消法と障害者雇用促進法による差別の禁止と合理的配慮の提供義務について一層理解と周知が必要となっている。

また企業が手話通訳派遣制度を利用するにあたり、手話通訳者は守秘義務を守っていることを知ってもらい、社外から手話通訳者が派遣されることの抵抗感をなくしていく取り組みが必要である。また費用負担について理解してもらうことも大切である。そして「障害・高齢・求職者雇用支援機構」が行う障害者雇用支援の一つ

に手話通訳者派遣の経費補助制度がある。この制度を周知することが課題となっている。

④健康について

年齢が上がるにつれて、いろいろな病気にかかり通院する人が多くなるため、安心して治療を受けられる体制を整えることは大切なこととなっている。意思疎通支援事業の利用においても医療分野が一番利用されている。

しかし、アンケートでは、受付で名前を呼ばれても分からないという不安や、一人で連絡できない不安、看護師、医師とのコミュニケーションが難しいという回答が多かった。手話通訳派遣事業を利用して通院している人と、一人で不安を抱えながら通院している人に分かれているようである。一人で通院している人は、遠慮があるのか、伝え方が不十分なのか、聞こえないことをきちんと伝えて配慮してもらうことは、まだまだハードルが高いようである。

⑤情報アクセスについて

テレビ番組に字幕を付けて欲しいという要望が一番多かったが、手話を付けて欲しいという要望も多かった。2021年度に開催された東京オリンピック・パラリンピックの開会式・閉会式にろう者が手話通訳を担当して放送されたことが大きな反響をよんだ。字幕があれば良いのではなく、手話を必要としている人がいること、字幕と手話付与の違いなどが理解されてきたようであることから、手話を付けて欲しいという要望も増えたと思われる。字幕については、テレビ放送だけでなく、YouTubeや有料での動画配信においてもニーズが高い。

デジタル社会の進展により、携帯電話・スマートフォンによるメールやSNSを活用したり、テレビ電話機能や音声認識アプリを活用したりするなど様々なデジタルツールの活用が若い世代を中心に増えている。聴覚障害者のニーズにあったアプリの開発や活用方法が進み、使える人が増えるよう情報提供や支援のための学習会の必要がある。

若い世代において、協会に入会していない人がスマートフォンを活用して情報にアクセスするだけでなく、コミュニケーションのツールとしても使っているという生活の変化が見られる。協議の中で、世代間での考え方が違ってきており、良い悪いではなく、各世代の考え方、生活の違いとして受けとめなければならないと話合った。また、スマートフォンの活用が自分の興味のある範囲に限られていること。若い世代でも知らないことが結構あるのではないかとの指摘があり。

⑥福祉制度の利用について

障害者総合支援法、介護保険法の利用についても聞いたが、聴覚障害者が利用できる福祉サービスがもともと少ないこと、質問の設定をもっと吟味する必要があったと反省している。利用できる制度・事業は何があるのか、利用の条件や手続きはどのようにすれば良いのかなどの学習会や周知方法が課題となっている。同時に、聴覚障害者が利用できる制度・事業になるよう検証と要望活動も求められているといえる。今後、議員立法での「障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション

施策推進法案」が国会に出される予定であり、国連・障害者の権利条約を基盤にした日本の福祉制度をきちんと活用していくことが重要である。

⑦若年層の聴覚障害の実態やニーズについて

20代30代の回答が少なかったため、若い人の実態やニーズを掴むことが難しかった。考えてみると、障害者に対する理解が昔より広まり、情報・通信に関する技術が発達した現在において、若い人達は差別というものをまだ実感していないのではないかという指摘があった。また全日本ろうあ連盟や富山県聴覚障害者協会が行なっている聴覚障害者の社会参加や福祉に関する運動の歴史や内容を知らないこと、そのため協会という団体に所属しなくても自分で対応できている人が多いことが考えられる。しかし、先輩たちの努力があって理解が広まっている今があること、差別を無くしていく取り組みは一人ではできないことで仲間たちと一緒にコミュニティがあり、運動していることについて県協会として講座や学習会などで伝えていかなければいけないと思われる。

提 言

①障害の理解のために

- ・地域、職場、病院等、生活のあらゆる場面で、聞こえない、聞こえにくいことの理解を広める。
会話する方法(筆談、音声認識アプリの活用、簡単な手話、身振りなど)を知ってもらう。
お付き合いの時や連絡、災害等緊急時のときをお願いすることを知ってもらう。
そのため、近所、町内会の役員、職場の同僚や上司、病院などに渡して説明、理解してもらうための簡単なパンフを作成し、必要とする聴覚障害者に配付する。
聴覚障害者がこのパンフをもとに説明していくための学習、トレーニングの場も設けていく。
- ・地域での良いつきあい事例がある聴覚障害当事者、また関わった聞こえる人から体験を話してもらい、近所とのおつきあい(あいさつ、町内会・班のこと、ごみの出し方など)について学習する講座あるいは学習会を各地域で開催していく。
聞こえない、聞こえにくい人と、聞こえる人の会話が気軽にできるよう、お互いに自分のことを話し、相手のことを話してもらう、社会的な関係を太くしていく姿勢が大切であることを知ってもらう。
富山県手話普及促進活動の出前手話講座の実績、富山市聞こえのサポート講座の実績を紹介して、こうした講座の開催を増やしていく。
- ・県障害福祉課と相談し、県のホームページにて啓発のための手話と字幕付き動画を作成してアップし、誰もが見られるようにする。
- ・地域の取り組みとして、手話サークルとともに、町内会の役員、民生委員と相談し、地域住民に理解を広めるための学習の場を設けてもらう。

②安心して暮らすために

- ・買い物の時、店員とのコミュニケーションをスムーズにするため、コミュニケーションボードを活用する。方法としては店に配付してカウンターに置き使ってもらう、聴覚障害者に配付して使ってもらう方法がある。
- ・スマートフォン、電話リレーサービス、遠隔手話通訳などのデジタルに対応した機器、アプリ、システムの紹介と使えるようになるための講座、学習会、相談支援に取り組む。
- ・遠隔手話通訳は、新型コロナウイルス感染症のケースだけでなく、緊急医療場面、交通事故の場面、災害の場面などに範囲を広げていく。また使いやすいシステムに改善を検討していく。
- ・プリペイドカード、クレジットカード、PayPayなどのキャッシュレス対応を考えている人に学習会や支援を行う。詐欺にあわないよう事例をもとにした学習を行う。またマイナンバーカード、マイナポータルについて啓発する。
- ・高齢部サロンの取り組みを県内6ブロックに開催し、交通の便がない人にも気軽

に集まり手話でおしゃべりできる場を増やす。協会の会員となることのメリットを知ってもらう。将来的には聴覚障害者センターの呉東地区、呉西地区のサテライト構想を地域活動支援センターの方法も含めて検討していく。

- ・ 県内放送局に対し、ローカルニュースを中心に字幕を付けるよう要望していく。
- ・ 災害時における放送、掲示板、文書配布、代読、手話通訳・要約筆記など様々な情報伝達手段を用いることで、確実に情報伝達がなされるよう支援する必要がある。そのための体制整備に向けて、行政と富山県聴覚障害者協会・聴覚障害者センターが連携して取り組んでいく。
- ・ ICTの普及啓発や情報環境整備を行うことでデジタル格差を減らし、行政やICTボランティア等の協力による技能講習を開催することで社会生活支援を行う。

③就労に関して

- ・ 聴覚障害者が就労している企業に理解と対応の方法、手話通訳・要約筆記派遣の紹介パンフレットを配付する。就労している聴覚障害者から会社の担当者に渡す方法、協会から郵送する方法の両方から取り組んでいく。
- ・ 就労場面での合理的配慮について分かりやすいパンフレットの作成に取り組む。意志疎通支援者の派遣が、企業の内部情報に触れることの抵抗をなくしていく。

【参考】「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」（令和3年6月改正）では、正当な理由なく、障害を理由として、サービス等の提供を拒否する、提供に当たって、場所・時間帯等を制限する、障害のない方に対して付けていない条件を障害のある方に付けるなど、「不当な差別的取扱い」を禁止するとともに、日常生活や社会生活を営む上で制約となっている事物、制度、慣行、観念などの「社会的障壁」を取り除くための「合理的配慮の提供」が義務づけられている。

④健康に関して

- ・ 医療を考える会が、医療従事者対象の手話講習会を開催していたが、再び、企画し実施する。
- ・ 聞こえないことを意思表示するマークとして全日本難聴者・中途失聴者団体連合会が普及している「耳マーク」がある。ある程度、周知され病院で使われたりしている。全日本ろうあ連盟では「手話マーク」、「筆談マーク」を制定・普及している。手話言語法制定を求めるための「手話バッジ」も販売されている。近年は「ヘルプマーク」も使われるようになった。「耳が聞こえません」と記した表示プレートを自分で作り利用している人もいる。こうした自分から積極的に周りの人に、聞こえない、聞こえにくいこと、筆談や手話を必要としていることをアピールする各種マークの普及に取り組む。
- ・ 遠隔手話通訳の利用のPRと登録に取り組む。

⑤福祉制度の活用に関して

- ・行政発行の「福祉のしおり」等をもとに、聴覚障害者を対象とするものだけを取り上げた簡易しおりを作成、配付する。
- ・聴覚障害者のための「デイサービス事業所大きな手小さな手」の運営について、高齢ろう者のための施設設置と合わせて検討していく。
- ・介護保険サービスや障害福祉サービスを利用する際の各種認定調査において、ろう重複障害者の特性を正確に反映される仕組みの見直しが必要である。
- ・高齢聴覚障害者を対象とする介護保険や障害福祉サービスの質の向上のため、同じ聴覚障害のある介護福祉士やホームヘルパー等の養成、そして手話通訳者・要約筆記者の養成が急務である。施設職員、介護職員対象とする啓発講座・手話講座を開催できるよう取り組んでいく。

また、地域のデイサービス、グループホーム等の介護支援施設、また療養型病院等に通所、入居、入院している聴覚障害のお年寄りも多い。そこでは介護に携わる職員等とのコミュニケーションが十分でないため、大勢の中においても常に孤独な状況におかれることが多い。そうした状況を前提に聴覚障害を持つ高齢者に接する場合に注意を払ってほしいことなどを具体的にレクチャーするパンフレット等を作成し、各種介護施設等へ配布するなどの取り組み。

各施設等の介護職員の研修会等の機会に、レクチャーのための時間をとってもらえるなどの働きかけ。

委員からのコメント

●富山福祉短期大学教授 鷹西 恒

聴覚障害者の自立を支援し、社会参加を促進するために、本人やその家族の立場にたった施策や今後のニーズに対応した福祉事業を活用する必要性を感じた。今回の調査ではとくに地域交流の促進、災害時対応の強化、現行のICT機器の活用と促進のための支援が急務と感じた。また、障害福祉サービスや介護保険サービスの利用情報の提供や、自治体、医療機関、福祉事業所等の職員、各種専門職への共通理解、併せて差別解消や合理的配慮の提供等についても引き続き働きかけていく必要がある。

聴覚障害者が社会の一員として生きていくためには、情報とコミュニケーションをいかに保障できるかが肝要となる。一方で、映画ヒノマルソウルにも取り上げられた聴覚障害者の活躍ぶりは、障害によってできないのではなく、その能力によって可能になることも証明していた。様々な可能性のある皆様に対して今後、社会がどれだけ多くの選択肢を提供できるかが重要であり、このことはノーマライゼーションの理念とも一致している。

●富山県聴覚障害者協会事務局長・施設長 中橋道紀

私事で恐縮ですが、町内会の班長に選ばれ、3月で任期が終わろうとしています。富山市広報の配布、会費集め、回覧板作りなど、ろうあ協会活動の合間での班長の仕事は大変でしたが、町内会では、会合への手話通訳の派遣、町内会長とメール及び筆談でのやり取りなど聞こえない事への理解が得られ、対応していただきました。充実した1年間だったと思います。

以前は、町内会長から「なんで聞こえない人を班長に選んだの？」と文句を言われたことがあり、あの頃と比べて、ずいぶん世の中は良くなったなあと感じました。

聞こえない人の生活、考えなどを聞こえる人に知ってもらうことが大切です。が、聞こえる人の全てに行き渡ることは大変なことです。そういう意味から、この報告書が聞こえない人への理解の一助になることに期待しています。

●富山県聴覚障害者協会専門部役員 蛭川一美

特に近所付き合いや災害に関する情報収集についての不安が多いと思います。

私事ですが、町内の福寿会（高齢者クラブのようなもの）に入会しました。民生委員から、「会費は障害者免除なのでぜひ入会してください」と筆談してくれました。人と人とのつながりができること、何かあったときに顔見知りがいれば助け合えると思い、夫婦で入会しました。民生委員は積極的です。このアンケートを地域や市役所などでも読めるようにし、それぞれで取り組んで頂ければいいと思います。

●富山県聴覚障害者協会専門部役員 大楠航一郎

実態調査に関わってみて、富山県にいるろう者の実態やニーズなどを知ることができて、有意義な機会となりました。聞こえない、聞こえにくい人が過ごしやすい社会に変えていくためにどうしたらいいか富山県聴覚障害者協会として考えていく、富山県聴覚障害者協会文化部としてニーズに合わせた講座計画を進めていくことなど進めていきたいと思います。また、時代に合わせてGoogleフォームを使った回答方法を採用し、表やグラフ作成までやってみました。取りまとめやグラフ調整など難しい面もありましたが、良い経験ができたと思います。その一方で若い聞こえない、聞こえにくい人の回答が少なかったのが残念でした。若い聞こえない、聞こえにくい人も富山県聴覚障害者協会にたくさん関わってもらえるよう考えていきたいと思います。

●富山県聴覚障害者協会専門部役員 小中栄一

コロナ禍の中で、調査検討会議を積極的に開けず、アンケート記入において、集団的な場において説明の上で記入してもらおう方法ができなかったことなど、反省することが多い。共同募金助成事業として理解を頂き、2年間の事業として、曲がりなりにも、できる範囲での、聞こえない、聞こえにくい人の生活の様子と不安に思っていること、要望が整理できた。調査検討会の協議において、課題の整理と提言としての取り組みの方針についてまとめることができた。関わって頂いた方には深くお礼申しあげたい。

私たち聴覚障害者は、同じ障害のあるろう・難聴者のコミュニティと、関わりのある家族や親戚、近所や町内といった地域のコミュニティ、どちらも必要としている。また生活の様々な場面の一つとして職場はやはり大切なコミュニティだと思う。

それぞれのコミュニティでの社会的関係を太くしていくための考え方、姿勢が大切だと改めて思った。まだまだコミュニティに入れないでいる聴覚障害者が多いと思うので、今後もみんな考え取り組んでいく取り組みを続けたい。

●富山県手話通訳問題研究会

聴覚障害者の生活実態の中で手話通訳に対して一定のニーズがあることが回答から分かる。しかし、手話通訳が保障されるだけではその問題の正しい解決はできない。聴覚障害者のかかえる問題が明らかにされていくことも手話通訳の役割である。日本は特に高齢化が進んでおり、当然手話通訳者も高齢化が進んでいる。ICTを含めた情報伝達技術は進んでいるが、技術の進歩だけで解決できないことも多く、手話ができる人を増やすことや、聞こえない・聞こえにくいことに対する理解の普及啓発などを含めた、聴覚障害者の生活の今後の発展に期待したい。そしてさらなる手話通訳の発展のためにその役割を果たしていきたい。

●富山県手話通訳士会会長 中橋露子

まずは、アンケート調査の回答が思いの外、少なかつたように感じる。コロナ禍とはいえ、もう少し丁寧な調査を実施できたら良かったと思う。また設問に関しても答えにくいものもあり、精査するべきだったと思う。アンケート結果から、意思疎通支援事業の利用者が意外と少なく、驚いた。定期的に聴覚障害者協会が学習会を開催していると聞いているが、会員対象にとどまっておらず、非会員や難聴者等への周知、また企業についても積極的に利用していただけるための手立ても一考が必要と思う。

いずれにしても、提言に出されている検討事項や取り組み事項について、提言だけにとどまらず、実現可能なものから1つでも進めていけたらと思う。これについては、聴覚障害者協会任せではなく、実現可能なチームなりを作り、行動に移せるものにしていききたいと切に思う。

●NPO大きな手小さな手理事長 金川宏美

平成19年の高齢ろう者を対象にした実態調査の結果を受けて、平成26年にデイサービス大きな手小さな手を開所、聴覚障害者に配慮した公的な社会資源として、高齢ろう者の支援をおこなっています。8年が経過した今、在宅生活が困難となった方の次の住まい(入居・入所施設)をどうするか検討する段階にきています。対処的な支援では支えきれない、将来を見据えた継続的で連帯した支援のあり方が必要だと実感しているところです。今回の調査において「介護・障害福祉サービスの内容がわからない」と回答が多かったのは、先の調査と同様で非常に残念です。一番危惧することは、情報がない等の理由で本来受けるべき適切な支援を受けられないことです。公的サービスの周知はもちろんのこと、相談事例を協会や設置手話通訳者、関係機関、支援事業者らと連携し、適切な支援に繋げていく。いろいろな角度から支えていくことが重要と考えています。声なき声を、形に。

アンケート用紙

このアンケートに回答頂いた個人情報は、厳重な管理のもと、調査統計のみに使用し、他には転用しません。

なお、この調査事業は令和2年度・3年度共同募金助成事業として行っています。

以下の質問について、あてはまるものの（ ）に○をつける、または□に☑をつけてください。

質問によっては、その他（ ）など、書く欄があります。自由に書いてください。

1. 性別 男 女 その他

2. 年齢 20歳未満 20歳～29歳 30歳～39歳 40歳～49歳
50歳～59歳 60歳～69歳 70歳～

3. 聞こえない、聞こえにくくなった年齢

生まれつき

生まれてから（ ）歳頃 ←数字を書いてください

分からない

4. 身体障害者手帳を持っていますか。

() 持っている

等級は何ですか

6級 4級 3級 2級 1級

() 持っていない

聴覚障害以外の障害がありますか

() ある 身体障害者手帳 言語障害 肢体不自由

視覚障害 内部障害 難病

療育手帳 知的障害

精神障害者保健福祉手帳 精神障害

その他()

() ない

5. 今一緒に暮らしている家族の人数は何人ですか。() 人

このうち、あなたを入れて聞こえない人は何人ですか。() 人

- () 地域の手話奉仕員養成講習会などを受講した
- () テレビの手話学習番組を見て覚えた
- () インターネットにある手話のYouTube等の動画を見て覚えた
- () 手話の本を買って、それを見て覚えた
- () その他 ()

11. 会話のときに使っているコミュニケーション方法のすべてに☑をつけて下さい。

- 補聴器 人工内耳 読話 声を出す 筆談
- 要約筆記 手話 手話通訳 キュードスピーチ 身振り
- 指文字 絵やカード 触手話 指点字 点字
- コミュニケーションボード 音声認識アプリ
- 家族や介助者の支援を受ける

※その中で主に使っている方法は何ですか 3つまで答えてください。

() () ()

・また、連絡するときに使っているコミュニケーションツールのすべてに☑を付けて下さい。

- PCのメール 携帯電話・スマートフォンのメール
- LINE スカイプ等のテレビ電話アプリ 電話リレーサービス
- ファックス 家族や介助者の支援を受ける
- その他 ()

※その中で主に使っている方法は何ですか 3つまで答えてください。

() () ()

12. 平日の昼間はどのように過ごしていますか。いくつでも☑をつけてください。

- 仕事 家事（炊事、洗濯、掃除等） 買い物
- テレビを見る 友達に会いに行く 家族・孫に会いに行く
- 趣味 どんなことをされますか ()
- 手話サークルに行く
- ろうあ協会の行事等に行く 散歩やウォーキング
- その他 ()

休日の昼間はどのように過ごしていますか。いくつでも☑を付けて下さい。

- 仕事 家事（炊事、洗濯、掃除等） 買い物
- テレビを見る 友達に会いに行く 家族・孫に会いに行く
- 趣味 どんなことをしますか ()
- 手話サークルに行く
- ろうあ協会の行事等に行く 散歩やウォーキング
- その他 ()

- () 交通方法
- () 誰に相談したらよいか分からない。
- () 手話通訳の利用 理由 ()
- () 要約筆記の利用 理由 ()
- () 施設の利用
- () 災害の情報、避難
- その他 ()

16. 健康ですか

- () 健康である
- () まあまあ健康である
- () あまり健康ではない
- () 健康ではない

17. 現在、病院や医院（診療所・クリニック）に通院していますか

- () はい
 - 週 1 回以上
 - 月 1 回
 - 月 2 ～ 3 回
 - 2 ヶ月に 1 回
 - 3 ヶ月に 1 回
 - その他 ()
- () ない

18. 病院でのコミュニケーションはどうしていますか。使う方法すべてに☑をとけて下さい。

- 筆談する 身振りで 口話で
- 手話通訳者を依頼 要約筆記者を依頼。
- 家族と一緒にいく。
- その他 ()

19. 病気のとき困ったことがあればいくつでも○をつけてください

- () 自分で病院に行けない
- () 自分で連絡ができない
- () お医者さんとの話がうまくできない。
- () 受付の人、看護師さんと話がうまくできない。
- () 医者の説明が分からない
- () 受付で名前をよばれても分からない。
- () 手話通訳を依頼したが、手話通訳してもらった話が難しかった。
- () 要約筆記を依頼したが、要約筆記してもらった話が難しかった
- () 手話通訳を依頼しにくい 理由 ()
- () 要約筆記を依頼しにくい 理由 ()
- () 自分の病気のことや薬について詳しく知ることができない。
- () 手術のとき、保証人になってくる人がいない。
- () 困ったことはない

() その他 ()

20. あなたは仕事をしていますか。

() 仕事をしていない

() 仕事をしている

どんな仕事ですか をつけて下さい

農林漁業 運輸・通信 事務 管理的職業 販売

公務員 自営 専門的、技術的職業 サービス業

技能工、製造、建設、及び労務 保安職業

金融・保険 組合・団体

その他 ()

21. 仕事をしている人に質問します。職場での身分は何ですか

() 正社員・正職員 () 準社員 () 嘱託

() パート () アルバイト () 公務員

() その他

22. 仕事をしている人に質問します。職場でのコミュニケーションの方法は何ですか。いくつでもをつけてください

手話 指文字 口話 筆談

空文字 聴力活用 身振り

Eメール 携帯電話・スマートフォンメール メモ

その他 ()

また、職場での、打合せ、会議、研修会などでのコミュニケーションの方法は何ですか。いくつでもをつけてください

手話 指文字 口話 筆談・ノートテイク

空文字 聴力活用 身振り

後でプリントまたはメールをもらう

手話通訳できる人に手話通訳してもらう

会社が手話通訳派遣を依頼してくれる

会社が要約筆記派遣を依頼してくれる

その他

23. 職場で理解がないと思ったり、差別を受けたりしたことがありますか。

() ある 具体的に書いて下さい。

()

() ない

24. 職場ではどのような理解・配慮を希望しますか。いくつでも○をつけてください

- 聞こえない・聞こえにくいことについてもっと理解して欲しい
- コミュニケーションがとれるよう筆談して欲しい
- コミュニケーションがとれるよう手話を覚えて欲しい
- 手話通訳者の派遣を希望したら対応して欲しい
- 要約筆記者の派遣を希望したら対応して欲しい
- アナウンスなどによる連絡は必ず筆談または手話で伝えて欲しい
- 文章を読んで理解することが難しいことを理解して欲しい。
- 気軽に相談できる用意をして欲しい
- その他 ()

25. 意思疎通支援事業の利用について

- ・手話通訳は利用しますか
 - よく利用する
 - 少し利用する
 - 利用したことはない
 - その他
- ・要約筆記は利用しますか
 - よく利用する
 - 少し利用する
 - 利用したことはない
 - その他

26. I T（情報通信）の利用について

- ・インターネットは利用していますか
 - よく利用している
 - 時々利用している
 - あまり利用していない
 - パソコンを持っていない。
- ・携帯電話、スマートフォンは利用していますか
 - よく利用している
 - 時々利用している
 - あまり利用していない
 - 持っていない
- ・電話リレーサービスは利用していますか
 - よく利用している
 - 時々利用している
 - あまり利用していない
 - まだ登録していないが、登録したいと思っている
 - 利用する気持ちはない
 - よく分からない

- テレビでの気象予報、災害情報などには字幕を付けてほしい
- テレビでの気象予報、災害情報などには手話通訳を付けてほしい
- 避難所がどこにあるか知らない。分かるようにしてほしい
- 避難所で聞こえない・聞こえにくい人への配慮が欲しい
- 災害支援や復興などの情報が見て分かるようにしてほしい
- 万一のとき、手話通訳・要約筆記依頼ができるようにしてほしい
- 遠隔手話通訳、遠隔要約筆記が使いやすいようにしてほしい
- 避難訓練は毎年、手話通訳・情報保障付きで行って欲しい

32. 富山県聴覚障害者センターを利用していますか、いくつでも○をつけてください

- 協会の行事などで利用する
- 映像ライブラリーを利用する
- 相談に利用する
- 手話通訳者派遣の依頼で利用する
- 要約筆記者派遣の依頼で利用する
- ほとんど行ったことがない
- 行きにくい 理由 ()
- その他

33. 聴覚障害者に配慮したデイサービス「大きな手小さな手」を知っていますか

- 知っている
- 今後利用するときがあれば利用したいと思う
- よく知らない

34. 今後、あなたや聴覚障害の仲間が安心して暮らすために、富山県内で必要と思うことについて、いくつでも○をつけてください。

- サロンなど同じ仲間が集まって過ごせる場
- 同じ仲間と一緒に暮らせる施設（グループホーム、老人ホームなど）
- よく使う施設（病院、駅、商業施設など）に見て分かりやすい案内を増やす
- 災害や事故にあったとき、いつでも安心して手話通訳や要約筆記を依頼できる
- 24時間対応する手話通訳等派遣センター（遠隔派遣含む）
- 暮らしや福祉・医療の相談ができる場
- 引きこもりがちな人を連れ出してくれる支援
- 送迎、買い物の支援
- 聞こえや補聴器の相談ができる場
- 聴覚障害者と話ができる人を増やす
 - 手話ができる人
 - 手話ができる看護師、介護職

- 手話通訳者
- 要約筆記通訳者
- 手話サークル会員

() その他 ()

35. あなたが日常生活で困っていること、心配なこと、希望することなどを自由にお書きください

以上です。記入ご苦労様でした。ありがとうございました

**共同募金助成事業
富山県聴覚障害者実態調査報告書**

2022（令和4）年3月発行

社会福祉法人富山県聴覚障害者協会

〒930-0806 富山市木場町2番21号

TEL 076（441）7331

FAX 076（441）7305

E-mail info@tomichokyo.or.jp

<http://www.tomichokyo.or.jp/>

